



THE CROSS OF CHRIST

「キリストの十字架」 救い主イエス・キリスト

しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、
私たちの咎のために碎かれた。

彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、
彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

イザヤ書53章5節

Lectured by Dr. David Jang
Compiled by Dr. Christy Tran
Translated by Yumi Tajima

序文

この「受難節のバイブルスタディー」は、レント(受難節)の期間、ヨハネ 13:1 から 19:30 までを毎日黙想するのに役立つよう作られました。最後の晩餐がヨハネ 13 章から始まり、ヨハネ 19:30 でイエス様が十字架で死なれます。ヨハネの福音書のこの箇所は、キリストの「死」に焦点を置いています。これはヨハネの福音書における中心部分です¹。

では、なぜ「死」に注目すべきなのでしょう？

それは、私たちが神様の愛を知りたいと願うからです。マーティン・ロイドジョーンズはこう言っています。「神様があなたを愛していると知ること以上に素晴らしいことはない。また、イエス・キリストとその受難を除外して、神様が彼を愛していることを本当に知る者はいない。²」

「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。(ローマ 5 : 6-9)」

パウロは「キリストが死んだ」といいました。これは重要なことです。「命」ではなく、「教え」ではなく、「奇跡」でもなく、「キリストは死んだ」と表現したのです。これは、私たちに向かう神様の愛を見せるため、また証明するために、パウロが強調したのです³。

キリストの死に注目すべき理由は、神様の愛を知るためです。キリストの十字架は、人間の歴史における最高の愛のメッセージです。この愛は、命と共にあって再び生まれます。十字架の後には復活が約束されています。復活は愛のもとに生まれた永遠の命です。つまり、十字架の愛と永遠の命の復活が福音のメッセージです。そのため、福音をより良く知るために、私達はキリストの死に注目すべきなのです。

イエス・キリストとその受難を通して、私達は神様の愛を知るべきです。これが福音の基礎であり、私たちの人生の原動力です。

信仰とは、正しい関係性と定義することができます。神様への信仰は、人間を神様との正しい関係の形成に導いてくれます。聖書が勧める神様との正しい関係とは、愛によって形作られる、愛の関係です。なぜなら、使徒ヨハネが証しているように、神は愛だからです。(I ヨハネ 4:8, 4:16)

キリストの十字架は神様の愛が最も明白に表された出来事です。この事件が起こる前には、誰も神様の愛を見たことはありませんでした。十字架を通して、神様はその愛を全世界に明らかにされました。そして、この十字架を通して、復活が可能となりました。十字架と復活は福音の核心です。

この本に書かれているすべての黙想の心は、その十字架におかれています。キリスト教の主な教義を説明するために、十字架を紹介するよりも、私はすべての学びの中心を十字架に置きました。

このバイブルスタディーを通して、次のふたつのことが期待されます。

- 1. キリストの受難の意味を知ることによって、キリストを通して表された神様の愛を再発見し、福音を理解する鍵をつかむ**
- 2. キリストによる愛の十字架を知ることによって、キリストと愛の関係を結び、彼の道に喜んで従う**

レントの間、この学びがあなたをより深い主の黙想へと導くことを願います。また、十字架の受難と救いの恵みを再発見することを願います。そうしないと「安っぽい恵み」にその価値を下げてしまうからです。

最後に、この学びが、あなたをキリストの十字架を自分の十字架として背負いながら、キリストと共に歩む人となるよう導くことを願っています。



The Sacrifice Feeding the Flowers

～ 花を養う犠牲 ～

by Monica Carmona

¹ Leon Morris states: "It is clear that for John the death of Jesus occupied the central place. He has referred to Jesus' "hour" or his "time" on a number of occasions during his account of the public ministry of our Lord to let us know that everything moves on to his climax, and his arrangement of his Gospel gives twelve chapters to the whole of the life of Jesus up to the eve of the crucifixion and nine to the last night of his life, together with the death and resurrection narratives. It is obvious where the emphasis lies. John will not let his reader miss what is the very central thing." Leon Morris, *Reflections on the Gospel of John* (Peabody: Hendrickson Publishers, Inc, 2000), 466.

² Martyn Lloyd-Jones, *Assurance: Romans 5* (London: Banner of Truth Trust, 1971), 19.

³ Lloyd-Jones, *Assurance: Romans 5*, 109.

ヨハネの福音書の特徴

学び始める前に、ヨハネの福音書の特性について見ておく必要があるでしょう。

ヨハネの福音書以外の3つの福音書を、共観福音書と呼びます。共観福音書は、共通した見方を持っています。3つのはじめの福音書が表現方法が似ていて、イエスの人生や宣教に関する記述のスタイルも似ている一方で、4つ目の福音書は明らかに異なります。

ジャン・カルバンが共観福音書とヨハネの福音書を、彼のヨハネの福音書に関する解説の序文で次のように比較しています。「他の3つの福音書はキリストの人生と死の完全なる物語を提供してくれる。しかしヨハネは、キリストの役目について教えることと、彼の死と復活の力について、長い文章を残している。他の3つの福音書が伝えていることは、キリストがこの世に救いをもたらすために来たこと、彼の死の犠牲を通して世の罪をあがなうために来たこと、簡潔に言えば、神と人との仲裁者として求められたことすべてを行うために来たこととなります。ヨハネはさらに、歴史の詳細を記すことにも努めました。しかし、キリストの再臨の力や恩恵を現す教えが、他の誰よりも、ヨハネによって明白に示されています。福音書の記者の全員が同じ目的を持っていました。キリストを示すことです。はじめの3つの福音書がキリストの体を示したと言うならば、ヨハネの福音書はキリストの魂を示しました。このため、私は普段、この福音書こそが残りを理解する鍵だと言います⁴。

このように、ヨハネの福音書には共観福音書とは違う独特な香りがあります。二重の意味や象徴にあふれるこのヨハネ書を学ぶとき、内在する意味を黙想し、その香りを味わうようアドバイスされます。ヨハネが描いたイエス様の話に深く入り込み、受難節の40日間、私たちの心にその話を刻み込みましょう。また、ヨハネがそうしたように、私たち自身の言葉でイエス様の話を再び伝えましょう。

最後に、ヨハネの福音書13章からは、はじめの12章と区別され、異なる側面が描かれています。ヨハネ13:1から19:30までのレントの旅を始めるにあたり、この福音書の構造をざっと見ておきましょう。

ジョン・フィリップがそれをよくまとめています。「ヨハネはまず神様の御子のしるしを示しました(1-12章)。いま(13章から)、彼は神様の御子の秘密を示します。この福音書の前半はパブリックで、後半はプライベートです。前半は議論にあふれていますが、後半は信頼にあふれています。前半では主の人間性が明らかにされていますが、後半では主の受難が明かされています。⁵」

ヨハネ13章のはじめ、十字架の道へ行く前に、主は厳しい世の中を離れて、愛する弟子たちを階上の部屋に呼びました。いま彼は、最も重要で深い、人の子の秘密を、詳しく、最も確信的に明らかにします。ここから、ヨハネが描いたキリストの受難が始まるのです。

⁴ John Calvin, *John: The Crossway Classic Commentaries* (Wheaton: Crossway Books, 1994), xii.

⁵ John Phillips, *Exploring the Gospel of John: An Expository Commentary* (Grand Rapids: Kregel Publications, 2001), 247.

レント(受難節・四旬節)とは

レントとは、灰の水曜日から復活祭(イースター)の日曜日までの 40 日間を指します(ただし、その間の 6 回の日曜日は除きます)。この期間、信仰者は自制や自省を通してイースターの準備をし、敬虔であろうと努め、イエス・キリストの受難と死を思い起こすのです。

40 という数字は、聖書によく登場します。モーセはシナイ山で 40 日間断食しました。エリヤは神の山に向かう道で 40 日間断食しました。イスラエルの民は荒野で 40 年間過ごしました。イエス様は荒野で 40 日間断食した後、悪魔の誘惑に遭いました⁶。また、ノアの 40 日間の洪水や、ヨナが二ネベに 40 日後に神の裁きがあると警告した出来事、イエスの復活から昇天までが 40 日など、他にも 40 という数字を見つけることができます。つまりは、40 とは苦難と再生を表す重要な数なのです。

レントのもともとの意味は、イースター主日に洗礼を受ける人のための準備・訓練期間でした。初代教会では、イースターに洗礼を受ける人たちが準備期間に、自然と訓練を受けていました。この期間がレントです。受洗予定者はこの期間、断食するように求められました。後に、この断食が教会全体に求められるようになりました。

時が経つにつれて、レントは個人の礼拝と、洗礼に関わらず、敬虔なクリスチャン生活を強調するようになり、謙遜と悔い改めの期間となりました。十字架におけるキリストの愛、ケノシス(kenosis)に倣って過ごす期間です。こうして、レントは愛の期間となりました。クリスチャンが驚くべき神様の愛を黙想する期間です。その愛とは、イエス・キリストを通して明らかにされ、その愛の炎は決して消えることがありません。この愛について深い黙想をするとき、焦点を失わず、霊的で敬虔な訓練を受けるべきです。

しかし、クリスチャンが敬虔で霊的な訓練を行うとき、問題に陥りがちです。独善を表したがるとき、信仰の危機に直面します。キリストの物理的な受難のみに焦点を置いた「文字的な期間」というよりも、むしろレントは、信仰者が聖書の著者によって描かれたキリストの受難の意味を具象化し、それぞれの人生の意味を考えるような「霊的な期間」となるべきです。

教会暦においてイースターと並ぶ重要なシーズンのひとつとして、レントは福音の核心を含んでいます。イースターが輝きと命を含有しているなら、その前のシーズン、レントは暗闇と死を表現しています。福音のメッセージは私たちの罪を清めてくれ、死の力を減ぼし、十字架で流されたイエスの血によって新たな命を得るという良い知らせです。簡潔に言えば、福音は十字架と復活を意味します。しかし、レントとイースターの順番が変わらないように、十字架と復活も逆にはなり得ません。現代のクリスチャンにおける最も深刻な問題のひとつは、十字架の苦難を見ず、栄光の復活だけに注目することです。

キリストの受難について、キケロが「最も残酷で汚らしい罰」と表現した言葉がよく引用されます。しかし私達は、ユダヤ人作家のヨセフスが言った「最も悲惨な死」という言葉にも触れるべきでしょう⁷。イエスの死は、当時もっとも恐れられた死、奴隷や罪人の死でした⁸。イエスの死は、私たちに対する神様の愛であり、彼の死を通して、神様は私たちに命を与えてくださいました。クリスチャンがイースターに復活した命の喜びを完全に満喫するためには、レントの期間にイエスの死の意味を黙想しなければなりません。

灰の水曜日 (Ash Wednesday)

レントの初日は、灰の水曜日と呼ばれています。初代教会が行っていた慣習で、レントの初日に、罪からの悔い改めのしるしとして、悔い改める人が頭に灰を振りかけます⁹。

受難の主日 (Passion Sunday)

レント 5 番目の日曜日は受難の主日として知られています。レント最後の 2 週間となる「受難の聖節」の始まりです。この 2 週間は特にイエス様の受難または最後の晩餐からの主の体験をしのびます¹⁰。

受難の聖節 (Passiontide)

受難の聖節は、受難の主日から聖土曜日までの 2 週間を指します。レント最後の 2 週間です。

棕櫚の主日 (Palm Sunday)

レントの第 6 主日、イースター前の最後の日曜日は棕櫚の主日と呼ばれます。この日は、イエス様がロバに乗ってエルサレムに入城されたことをしのびます。

聖週間または受難週 (Holy Week / Passion Week)

棕櫚の主日にはじまるレント最後の 1 週間です。キリストの受難——彼が捕らえられ、ピラトに裁判にかけられ、十字架に張り付けにされたこと——をしのぶこの期間は、レントのクライマックスです。聖週間はキリスト教の 1 年の中心とも呼ばれます¹¹。

Three Minor Days

聖週間の前半は、スリー・マイナー・デイズと呼ばれます。聖週間の月曜日、火曜日、水曜日です。

過越の三日間 (Triduum/ The Paschal Triduum/ The Easter Triduum)

過越の三日間はイースターの三日間とも呼ばれます。ユダヤ人の 1 日の定義に則り、日没から日出までを 1 日と数えることから、洗足木曜日の夜からイースターの夜までです。この 3 日間はイエス・キリストの受難、死と復活をしのびます。洗足木曜日と聖金曜日、聖土曜日、そしてイースターは、教会暦の頂点です。

⁹ Charles Fillmore, *Keep a True Lent* (3rd ed. Lee's Summit: Unity School of Christianity, 1954), 138
¹⁰ Charles Fillmore, *Keep a True Lent* (3rd ed. Lee's Summit: Unity School of Christianity, 1954), 138.
¹¹ Victor E. Beck and Paul M. Lindberg, *A Book of Lent* (Philadelphia: Fortress Press, 1963), 32.

⁶ Jangbok Jung, *Introduction to Liturgics* (Seoul: Worship and Sermon Academy, 1999), 299.

⁷ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 655.

⁸ Barclay, *The Gospel of John*, 291-292.

洗足木曜日または聖木曜日

(Maundy Thursday/Holy Thursday)

イースター直前の木曜日、洗足木曜日(Maundy Thursday)は、ラテン語の“mandati”がなまって変化したものです。“命令の”という意味があり、イエス様が最後の晩餐でパンを割き、ぶどう酒を飲んだ際、「私を記念するため、このように行いなさい」と命じられたことによります。洗足木曜日には、最後の晩餐の出来事をしのびます¹²。

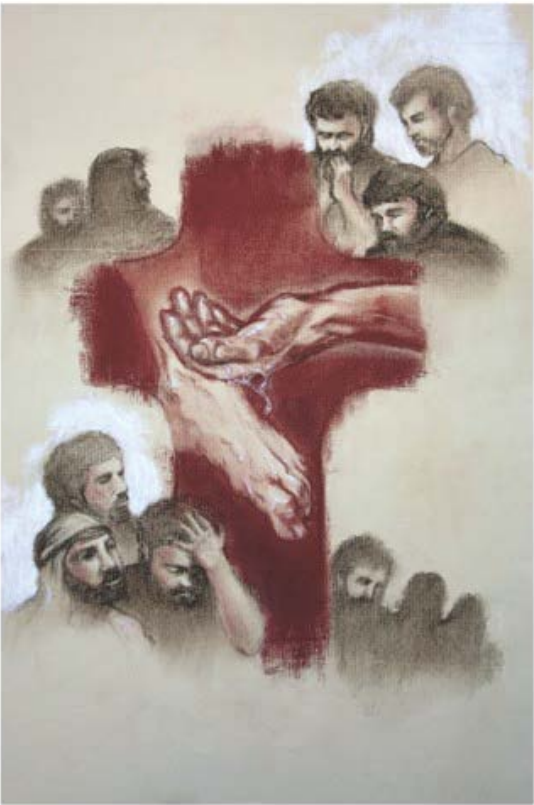
共観福音書によれば、最後の晩餐は過越の食事で、ヨハネの記述によると、イエス様が十字架につけられた日は過越の祭りの日でした¹³。また、ヨハネによると、この日はイエス様が弟子たちの足を洗った日でした。

聖金曜日 (Good Friday/Holy Friday)

イースター直前の金曜日、聖金曜日は、イエス様が十字架にかけられたことをしのぶ日です¹⁴。おそらく、元々は「神様の金曜日」として知られていました。イエス様が捕らえられ、裁判にかけられ、苦しみを受け、十字架に張り付けにされるという一連の出来事をしのぶ日です。逆説的ではありますが、この日は十字架の福音を祝う日でもあります。キリストの十字架は失敗ではなく、勝利です。十字架の福音、祝福の知らせ、勝利の知らせが宣言された日、救いがすべての罪人にもたらされました。だからこそ、この日は聖金曜日(Good Friday)と呼ばれるのです。

聖土曜日 (Holy Saturday)

聖土曜日は、イエス様が墓の中で休まれた日です。この日はユダヤ教の安息日でもあります。伝統的に教会はこの日に、キリストのあがないの受難と死を強調し、黙想します。特にこの日は、伝統的に、聖金曜日と続けて断食をする日です。教会員全員が断食するよう呼びかけられます。この日はまた、洗礼前教育の最後の日でもあります。この教育を受けた人たちが、イースターの朝または夕方に洗礼を受けるのです。



Footwashing
by Ginturn H. Tran

¹² Fillmore, *Keep a True Lent*, 139.
¹³ We should be aware of John’s intention in recording this way. John connects the Passover festival, which commemorates that the angel of death passing over the households of Hebrews, on which doorposts were sprinkled with the blood of lambs. He intends to emphasize that the death of Jesus was the death of redemption and that the true Passover lamb shed his blood for the world.
¹⁴ Fillmore, *Keep a True Lent*, 139.

最後まで愛する

ヨハネの福音書 13:1-3

- さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。
- 夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、
- イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、

過越の祭りの前のことです。過越の祭りはイスラエルの民の出エジプトを祝うものです。戸の側柱に羊の血を塗っていたイスラエルの家は、死の御使いが過ぎ越したことにちなんでいます。「過ぎ越しの祭りの前」とは、本物の過ぎ越しの羊であるイエス様が、いまにも苦しみを受けられることを意味しています。つまり、彼の時が来たのです¹⁵。これは、イエス・キリストの地上における最後の 3 日間が始まる場面です。「地上での最後の 3 日間」とは、言い換えれば「死」です。死期がイエス様に近づいてきています。ヨハネは、「イエスが彼の終わりが近づいていることを知っていた」とは記述せず、むしろ「イエスは彼が神のもとへ帰ろうとしていることを知っていた」と記しています。

イエス・キリストの人生は、神様がこの世をこよなく愛し、ただ一人の御子をこの世に遣わしたために始まりました(ヨハネ 3:16)。イエス様はまた「彼が神から来て、神のもとへ行こうとしていること」を知っていました(13:3、参照 8:42,16:5)。これがイエス様の自己理解でした。これが御子のすべてのミッションの要約です。つまり、これは福音すべての要約なのです¹⁶。

「この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」これはヨハネ 13 章の最初の節であり、この福音書の見出しのようなものと見なすことが出来るでしょう¹⁷。イエス・キリストの人生は、神様の愛のゆえに始まりました。その結果、彼の全生涯は一つの言葉に集約されます。「愛」です。

たとえ十字架を担わねばならないような死のときであっても、イエス様は愛しました。

このイエス・キリストの愛とは、どのような愛でしょうか？

この愛について、愛の新しいカテゴリーに過ぎないとか、人間の愛とは違うだけだとか、紀元 1 世紀頃にイエスの人間性を否定したグノーシス主義と何も変わらないと言うかもしれません。しかし、この愛は抽象的で謎めいたものではなく、私たちも持っているものです。ただ私たちとは違って、イエス様はシンプルに「最後まで愛し抜かれました」。

イエス様が弟子たちを最後まで愛しめかれた(He loved them unto the end)、eis telos とは彼が「完全に」愛されたという意味を表します¹⁸。この愛は、彼自身には何も残さずに、完璧に彼を捧げるものでした。イエス様のこの変わらない愛は、十字架の死さえも飲み込みました。彼は自分が天に帰ることを知っていました。彼が天へと急いで行く間にも、彼はこれまでと変わらず、彼のものを愛することをやめませんでした¹⁹。

「世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。(ヨハネ 13:1)」

ヨハネが「彼の弟子たち」と書かず「自分のもの」と書いたことを思い起こすとき、彼が過去からすべての信仰者たちを含まうとしていたことに気づきます。

しかし、この愛がとにかく抽象的なものだとか、区別されないものだと考えてはいけません。キリストが世にいる自分のものを愛されたこの愛は、個人的なものであると同時に、独特なものです²⁰。イエス様はすべてを愛されました。愛される資格のあるものだけではなく、主を知らないと言ったペテロや主を裏切ったユダまでもでした。

「いまイエスは、マルタと妹、ラザロを愛された(ヨハネ 11:5)」このイエス様の愛のリストに、私の名前も入っており、永遠に続くのです。

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉でまとめてみましょう。
- イエス様にとっての死とは、愛によって始められた命がいま、神の愛の御意思によって戻っていくという意味がありました。では、あなたにとっての死とはどんなものでしょうか？
- 今日のメッセージから、人生にどのように教訓を活かしたらよいでしょうか？

* 祈り *

イエス様は神様の愛によって生まれ、愛と共にある神様のご意志に従い、神のもとへと帰られました。イエス・キリストの人生について、もっと知りたいと願います。特にこのレントの期間、すべてを犠牲されたイエス・キリストの愛に触れられる事を願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁵ Comfort, *I am the Way: A Spiritual Journey through the Gospel of John*, 114.

¹⁶ Stanley B. Marrow, *The Gospel of John: A Reading* (New York: Paulist Press, 1995), 227.

¹⁷ R. H. Lightfoot, *St. John's Gospel: A Commentary* (Oxford: Oxford University Press, 1960), 260.

¹⁸ R. V. G. Tasker, *The Gospel According to St. John: The Tyndale New Testament Commentaries*, 2nd ed. (Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1965), 154.

¹⁹ Calvin, *John*, 319.

²⁰ Marrow, *The Gospel of John*, 225.

愛のギフト

ヨハネの福音書 13:4－11

4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。
5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまっとうられる手ぬぐいで、ふき始められた。
6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」
7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」
8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」
9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」
10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」
11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない」と言われたのである。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉でまとめてみましょう。
2. 弟子たちの足を洗うことで、イエス様は愛のために、自らをしもべの地位まで低められました。謙遜な心で、主は今日、愛のギフトをあなたの人生に提供してくださいます。自分の傲慢さが、この愛を受け取らせなくしているかどうか、内省してみましょう。
3. 今日のメッセージに基づき、「愛だけが愛をよく理解できる²⁸」という意味を説明しましょう。
4. 今日のメッセージから受けた教訓を、人生にどのように活かしたらよいでしょうか？

* 祈り *

今日もなお、主はひざをかがめ、私たちの汚い足を洗おうとなさっています。愛のギフトを与えようと私たちの心のドアを叩いています。ペテロが傲慢さのゆえにしたように、私たちが心揺さぶられる主の聖なる愛を決して拒絶しませんように願います。そうではなく、心を広く開いて、主の愛を完全に心に受け入れ、清められ、永遠の命へと導かれますように願います。主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン。

イエス様は食事の席から立って、上着を脱ぎ、弟子たちの汚い足を順々に洗っていきました。これほどイエス様の性格を表しており、完璧に彼の愛を示している福音書の箇所は非常に貴重です²¹。

ヨハネは、イエス様が、父が万物を自分の手に渡されたことを知ったと記録しています(ヨハネ 13:3)。父が彼の手に渡されたのは、愛のギフトです。これが、彼のものを「最後まで」愛され、その愛を彼らの足を洗うことで示され、自ら自由者となったことへの彼の理解でした²²。

しかし、イエス・キリストがひざをかがめ、足を洗おうとすると、ペテロはそれを拒みました。その意味がわからなかったからです。そこでイエス様は「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません」とおっしゃいました。主のみが私たちの罪を洗うことができ、私たちが清められた後、はじめてキリストの弟子となることが出来ます。

イエス様が弟子たちの足を洗ったこの出来事は、十字架そのものを前もって示しています²³。「御子イエスの血が私たちをすべての罪から清めてくださいます(Ⅰヨハネ 1:7)。」イエス様の十字架での死は、入浴のようなものです。それによって私達は完全に清められます²⁴。

さらに、イエス様が足を洗おうと申し出られたことは、愛の申し出です。しかし、イエス様は「ご自分のものを愛された」のですが、彼らにその愛を示すことしか出来ず、受け取るように強制はできません²⁵。自ら受け取るうとする者だけが、イエス・キリストの愛のギフトを受け取れるのです。

愛のギフトを受け取るためには、私はまず、彼の愛が必要だと告白しながら、謙遜になるべきです。主が私たちに与えようと願っている愛のギフトは、自らの命までも、すべて惜しげなく与えられるものです。心揺さぶられる血のように赤い愛です。その愛を拒否するとき、私達は主と関係がなく、弟子でもありません。

愛されることは、愛するために必須の前提条件です(Ⅰヨハネ 4:19)²⁶。愛されないとき、互いに愛し合いなさいという命令を維持することは出来ません。

受け入れるとき、この主の愛は「永遠の命」ですが、拒否するときには「審判」となります²⁷。自ら喜んで主の愛を受け入れ、その愛によって清められましょう。

²¹ Barclay, *The Gospel of 9*.

²² Marrow, *The Gospel of John*, 230.

²³ Morris, *The Gospel according to John*, 544.

²⁴ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 470.

²⁵ Marrow, *The Gospel of John*, 229.

²⁶ Marrow, *The Gospel of John*, 230.

²⁷ Ibid., 231.

²⁸ Martyn Lloyd-Jones, *The Unsearchable Riches of Christ: Ephesians 3* (Edinburgh: Banner of Truth, 1979), 214.

私がしたとおりに

ヨハネの福音書 13:12－17

12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。
13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。
14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。
15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。
16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。
17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。

ヨハネは記録しませんでしたでしたが、ルカは非常に悲劇的な場面を、最後の晩餐の箇所で記録しています。「彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった。(ルカ 22:24)」最後の晩餐のときさえも、十字架の影が近づいているそのときさえも、弟子たちは誰が偉いかという議論をしていました(マタイ 20:20－28、マルコ 10:35－45、ルカ 22:24－27)。

サンダルのような履き物が主流だった当時、足を洗うことは、卑しくも必要不可欠なサービスでした。埃っぽく泥だらけの道のりを旅してきた身には、足浴はもっともリフレッシュできるものです。足を洗って差し上げる行為は奴隷の中でも低い階層の者が行いました。なぜなら、奴隷にもランク分けがあったからです²⁹。

イエス様が足を洗われたことは、人々の注目を集めるための演出ではありません。この出来事が行われた階上の部屋は、シアターではありません³⁰。これは現実でした。ひざまずかなければ、足を洗うことは出来ません。イエス様が弟子たちの足を洗うために立ち止まれたことは、神様の謙遜を象徴しています³¹。したがって、これは彼が神様のもとから来られたという自意識と、彼が夕食の席から立ち上がり、奴隷のように振舞ったという着地点「のおかげで」なのです³²。

イエス様が死に向かう前の最後のこのお話において、弟子たちの足を洗われたことは生きたたとえ話のようです³³。主が常々教えてきたこと、またこの出来事の後も教え続けられることを実際に示しています。一言で言えば、彼は「愛」を表現したのです。愛はもっともつまらない仕事を喜んでさせます。なぜなら愛とは常にそういうものだからです³⁴。

「イエスはおすわりになり、十二弟子を呼んで、言われた。『だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなものしんがりとなり、みなに仕える者となきなさい。』」(マルコ 9:35) (マタイ 23:11,20:27,マルコ 10:43-44,ルカ 22:26-27)

イエス様は教師であり、主でした(ヨハネ 13：13)が、最もすばらしい方が最も取るに足らない者となりました。神様の御子が私たちのもとへ来てくださり、最も身分の低いしもべとなり、すべての人に仕えました。

「それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。(ヨハネ 13：14)」イエス様が自らを低められ、素晴らしい愛で私たちの足を洗ってくださったように、私たちも彼の愛とともに互いに足を洗い合うべきです。イエス様が命じられたことは、彼の愛とサービスをやり取りすることではなく、信じる

者たちのコミュニティにおける日常生活において、それを再現することです³⁵。ヨハネが私たちに伝えたことは、ただイエス・キリストのみが最も卑しい身分に自らを低められることだけでなく、誰もが奴隷となれるのだということです³⁶。

主は「いまあなた方はこれらのことを知ったのですから、それを行うときに、あなた方は祝福されるのです」とおっしゃいました。イエス様の言葉を人生の道しるべとして解釈する人は祝福されます。主を信じることは、ただの知的な活動ではありません。むしろ人生すべてを、主がおっしゃった言葉に従って、生き抜くことです³⁷。ヨハネが証したイエス・キリストの愛とは、感情的でもなく、理論的でもありません。イエス様が示された愛とは、自制であり、愛に基づく自己犠牲の行動でした。これが、ヨハネが伝えた愛の本質です。私達は愛のないやかましいドラやうるさいシンバルとはならず(Ⅰコリント 13：1)、愛を持って互いに足を洗い合うことで、真理を行動で表しましょう。

* 質問 *

- イエス様が弟子たちの足を洗うシーンは、パウロがフィリピ 2：5-11 で語ったことに非常に近いです。ヨハネ 13：3-12 はポートレート(肖像画)を提供し、ピリピ 2：5-11 はそのキャプション(見出し・説明文)です³⁸。今日のメッセージに、自分なりのキャプションをつけてください。
- 「イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。『わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。』」(ヨハネ 13：12)。この主の問いに答えてみましょう。
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

イエス・キリストは謙遜な主です。神様の愛を、弟子たちの足を洗うときのみならず、彼の人生すべてで示した方です。私の魂はその主を待ち望んでいます。主が愛によって自らを無にしたように、私も自らを高めようとする心を止めるようにしてください。主よ、あなたの愛に似て、あなたのように生きられるように導いてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²⁹ Chester Warren Quimby, *John, The Universal Gospel* (New York: The Macmillan Company, 1947), 175.

³⁰ Marrow, *The Gospel of John*, 228.

³¹ Quimby, *John, The Universal Gospel*, 176.

³² Tasker, *The Gospel According to St. 5*.

³³ Ibid., 154.

³⁴ Barclay, *The Gospel of 9*.

³⁵ Marrow, *The Gospel of John*, 235.

³⁶ Quimby, *John, The Universal Gospel*, 176.

³⁷ Marrow, *The Gospel of John*, 233.

³⁸ Comfort, *I am the Way: A Spiritual Journey through the Gospel of John*, 113.

彼はすぐに出て行った 夜であった

ヨハネの福音書 13:18-30

18 わたしは、あなたがた全部の者について言っているではありません。わたしは、わたしが選んだ者を知っています。しかし聖書に『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かってかかとを上げた』と書いてあることは成就するのです。
19 わたしは、そのことが起こる前に、今あなたがたに話しておきます。そのことが起こったときに、わたしがその人であることをあなたがたが信じるためです。
20 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの遣わす者を受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのです。」
21 イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。」
22 弟子たちは、だれのことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。
23 弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。
24 そこで、シモン・ペテロが彼に合図をして言った。「だれのことを言っておられるのか、知らせなさい。」
25 その弟子は、イエスの右側で席に着いたまま、イエスに言った。「主よ。それはだれですか。」
26 イエスは答えられた。「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。
27 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」
28 席に着いている者で、イエスが何のためにユダにそう言われたのか知っている者は、だれもなかった。
29 ユダが金入れを持っていたので、イエスが彼に、「祭りのために入用の物を買え」と言われたのだとか、または、貧しい人々に何か施しをするように言われたのだと思った者も中にはいた。
30 ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。

イエス様は、あなた方のうち 1 人が私を裏切ると言い、12 人の皆が清いわけではないと言いました。主はユダのことを指していました。イエス様が暗示した、ユダの清くない部分は、足ではなく、彼の心にありました³⁹。

この清くない者、裏切り者は、いま最後の晚餐の席にいます。イエス様は彼を夕食の席に招待し、彼の足も洗いました。そして、浸した一切れのパンを彼に渡したのでした。

初めてこの場面を見ると、イエス様がユダをさらすように見えるかもしれませんが、実は、これは全く逆なのです。東洋では、椅子に座ったり、しゃがみこんだりして食事をとるのが習慣です。その中で、参加者は欲しいものを取るときに、指や折り曲げたパンを浸して取っていました。ゲストが揃うと、ホストは、もしそのうちの 1 人に栄誉を与えたい場合、パン一切れをスプーンほどの大きさに折り曲げ、スプーンなどに浸し、それをゲストに手渡します。イエス様はこれをユダに行ったのです。だからこれはユダをさらし者にするのではなく、彼を保護しようとしたことでした⁴⁰。

イエス様がユダに勝利しようとした最後の努力でした。まるで主が「ユダ、今夜はあなたが最も称えられるゲストだ。今夜、あなたは私の最も愛する友人だ」とおっしゃっているようでした⁴¹。

しかし、ユダはこのイエス・キリストの愛に抱かれませんでした。彼は戻るには遠すぎるところまで行ってしまったのです。彼は永遠に呪われるものとなりました。イエス様が彼をさらした行動によってではなく、彼を救おうとしたキリストの愛によってです⁴²。ユダはついに、キリストの愛の最後の勤めを見捨てました。なぜ彼はこの愛を見捨てたのでしょうか？

その理由は、彼が主の愛を理解できなかったからです。主の行動すべてがナンセンスに見えました。彼自身の挫折感や強欲、不誠実さが、彼をキリストからどんどん引き離しました⁴³。最後には、彼はキリストの愛を拒否し、引き返すことの出来ない道へと離れていきました。しかし、ユダは何の言い訳もしませんでした。彼はキリストによって弟子として選ばれました。彼は自らの自由意志によって、弟子となりました。裏切り者となったのも、彼自身の選択でした⁴⁴。

「ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。(ヨハネ 13:30)」

彼は愛のパンを受けたにもかかわらず、それを拒否しました。彼は霊的な死の暗闇の中へと逃げていきました⁴⁵。彼の心は、主からあまりにも離れていました。だからこそ、彼は主の真理が輝く明るい階上の部屋から離れ、漆黒の闇へと消えていきました。そこに永遠の闇がありました⁴⁶。この闇は、彼の魂の暗闇です。

「(ユダは)こう言った。『彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。』すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。(マタイ 26:15)」

その夜、ユダはイエス様を裏切りに出て行きました。非常に痛ましく、悲劇的な話です。結局は、ユダがキリストを売ったように、彼は自らに値段をつけ、彼自身を売り渡してしまいました。私たち自身も、神様の恵みのもとに生きていますが、自由意志のゆえに彼のように墮落する自由も持ち合わせています。もしイエス様を理解せず、その愛を知らなければ、私達はユダと共にありますが、私たちもまさにユダのように、主を安価で売り飛ばすし、自らをも売り飛ばしてしまうかもしれません。立つべき道はたった一つだとしても、無数の墮落への道を私達は選ぶことが出来るのです⁴⁷。「ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。(I コリント 10:12)」



Judas' Last Sop

~ユダの最後の食物~

by Ginturn H. Tran

³⁹ Merrill C. Tenney, *John: The Gospel of Belief, An Analytic Study of the Text* (Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1948), 200.

⁴⁰ Quimby, *John, The Universal Gospel*, 177.

⁴¹ Ibid.

⁴² Ibid.

⁴³ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 254.

⁴⁴ Ibid., 254.

⁴⁵ Quimby, *John, The Universal Gospel*, 177.

⁴⁶ Marrow, *The Gospel of John*, 240.

⁴⁷ Marrow, *The Gospel of John*, 227.

*** 質問 ***

1. 今日のメッセージを自分の言葉でまとめてみましょう。
2. ユダが光のなかから闇へと出て行ったことは、暗黒への旅でした。そこに永遠の闇があります。自分自身を省みて、私は真理が宣言される光の中にいるのか、それとも主の愛を拒む闇の中にいるのか考えてみましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適應できるでしょうか？

*** 祈り ***

イエス・キリストの愛は本当に素晴らしいものです。主はユダが裏切ろうとしていることを知っていながらも、晩餐の席に招き、彼の足を洗いました。パン一切れを与え、最後の勧めを行いました。主は裏切り者さえも愛し、最後まで彼を愛されました。主の愛の晩餐を拒否し、主の愛から離れることがありませんように願います。光から離れ、闇へ行くことのないようにしてください。私たちが主を売るように、自らを売り渡さないようにしてください。私たちの愛で主の愛に答え、真理の輝きの中に生きる私たちとなりますように願います。主の御名によって祈ります。アーメン。



Judas immediately went out; John 13:30
~ユダはすぐに出て行った~
by Joungmi Kang



Judas immediately went out and it was night
John 13:30
~ユダはすぐに出て行った 夜であった~
by Joungmi Kang

いま人の子は栄光を受けた

ヨハネの福音書 13:31－32

31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。
32 神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。」

ユダは、イエス様の最後の愛の招きを拒否し、光のなかから漆黒の暗闇へと離れていきました。このユダの出発の意味とは何でしょうか？

ユダの出発は、イエス様の出発を先に告げています。イエス様は家に帰られる道中にいました。その道は、暗く、陰しいものでした。十字架はその道にまたがっていました⁴⁸。ユダはイエス様を裏切り、彼を迫害する者たちの手に渡す道の途中にいました⁴⁹。

そのとき、イエス様は宣言しました。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。」「今こそ」——イエス様は「今こそ」とおっしゃいました。今こそ、十字架が明らかとなり、まもなく彼は残酷な死に直面するわけですが、彼は栄光と語ります。イエス様は過去形で語りました。「今こそ人の子は栄光を受けました。」

ユダは出て行き、十字架は確実となりました。今こそ、イエス様の栄光がやってきました。その栄光とは十字架です⁵⁰。

なぜ十字架は栄光なのでしょう？

それは神様によって決められました。それは確かに通らねばならないものでした。それが成されたとき、栄光の最高の表現となりました⁵¹。主は、暗い谷を越えて、その先の頂に輝く栄光を見ていました⁵²。

イエス様は受難を通して光を見ていました。その光とは、復活への、また天国の彼の場所に戻されることへの光でした。彼は、父が十字架に置いて栄光をお受けになるとおっしゃいました。そして、彼が死から引き上げられるとき、父は御子に栄光をお与えになると⁵³。

なぜなら、彼が十字架から引き上げられるとき、全世界がイエスがキリストだと知ようになるからです。その十字架はイエス様にとって栄光です。また、十字架上で、イエス様は御子であり、神様はその父であることが明らかにされます。その結果、神様もまた十字架上の死によって栄光を受けられるのです。

イエス様はこれらのことが「ただちに」なされるとおっしゃいました (13:32)。これがイエス様の**信仰**です。「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル 11:1)」信仰は未来を見せてくれます。信仰は未来を今日に描く力です。イエス様は信仰で未来の栄光を見ました。

愛される栄光ほど素晴らしい栄光はありません。神様が超然とし、壮大で、穏やかで、心動かされぬままであり、どんな悲しみもどんな苦しみも感じないとしたら、人はおそらく神に恐怖を抱き、敬服したでしょう。しかし同時に人は決して神を愛さなかったでしょう⁵⁴。神様は、御子を十字架に導く際、最高の犠牲をしました。十字架は神様にとっても、イエス様にとっても、最高の犠牲です。すべての人に与えられた血のように赤い愛は、この犠牲の中に消えることなく刻み込まれています。私達は、この神様を愛さずにはられないのではないのでしょうか。

＊質問＊

1. ジャン・カルバンが十字架の栄光について次のように述べています。
「確かに、神の栄光はすべての被造物のなかに輝いている。しかし十字架の中ほどは何物も輝いていない。十字架には素晴らしい物事の変化がある。すべての人の罪が明らかになり、罪が消し去られ、人に救いが回復される。つまり、全世界があらたにされ、すべてが秩序だって回復されたのだ。⁵⁵」
なぜ十字架が栄光なのか、自分の言葉で説明してみましょう。
2. 人生における最高の栄光とは、犠牲からくる栄光です。人類は成功した人のことを忘れますが、犠牲した人のことは決して忘れません⁵⁶。命を私たちに与えた主の犠牲の意味とは何でしょうか？
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように人生に適應できるでしょうか？

＊祈り＊

すべてを与え、最後には命まで犠牲された愛のイエス様を決して忘れません。イエス様の栄光は、その犠牲と愛を通して輝いています。このイエス様の愛を覚えていられますように願います。イエス様がそうしたように、私達も神様を愛することで神様から栄光を与えられますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



The Upper Room
by Ginturn H. Tran

⁴⁸ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 259.

⁴⁹ Comfort, *I am the Way: A Spiritual Journey through the Gospel of John*, 120.

⁵⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 171-172.

⁵¹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 483.

⁵² Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 259.

⁵³ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 483.

⁵⁴ Barclay, *The Gospel of John*, 172.

⁵⁵ Calvin, *John*, 331.

⁵⁶ Barclay, *The Gospel of John*, 172.

新しい契約

ヨハネの福音書 13:33－35

33 子どもたちよ。わたしはいましばらくの間、あなたがたといっしょにいます。あなたがたはわたしを捜すでしょう。そして、『わたしが行く所へは、あなたがたは来ることができない』とわたしがユダヤ人たちに言ったように、今はあなたがたにも言うのです。
34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ユダの出発後、いま階上の部屋にはたった 11 人とイエス様だけが残っています。この場所で、イエス様は愛する弟子たちをはじめ「小さな子どもたちよ⁵⁷」と呼びます。弟子たちへの深い愛がこの言葉に隠されています。あと少しで、イエス様は愛する弟子たちを厳しい世の中に残して行かねばなりません。主はお一人ではなれます。この言葉のなかにイエス様の心が潜んでいます。

いまイエス様は、まるで最後の別れのように、まるで遺言のように、残される弟子たちに言葉を口に出しています。

「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

イエス様を慕い求める者や、彼が行くところについていきたいと思う者へ、イエス様は「新しい戒め」を与えます。こうして彼は、自分自身から「互い」へと人々の関心を移すことで、彼に従い、彼と共にいたいというリクエストに答えたのです⁵⁸。

しかし、互いに愛し合いなさいという戒めは、決して新しい戒めではありません。旧約の時代にイスラエルの民に神様が与えられた言葉です。「隣人をあなた方自身のように愛しなさい。私は主である。(レビ 19:18)」

なぜイエス様は同じ戒めを「新しい戒め」と呼んだのでしょうか？ 他のどんな理由でもなく、彼が私たちに、まさに彼が愛したように愛しなさいと呼びかけたからです。これは新しい戒めとなるべきです。古い戒めですが、同時に、フレッシュな新しい戒めです。私たちがイエス様の愛に似た愛で愛するときです。彼の愛のおかげで、彼は状況に閉じ込められず、死の影の中であっても、変わらず、無条件に最後まで愛しました。

弟子たちは罪深い人間の例です。彼らの師の最後の瞬間さえも、彼らの中で誰が一番優れているかについて議論していたからです。それにもかかわらず、イエス様は彼らを深く愛し、彼らのために十字架を担いました。

イエス様が私たちに求めている愛とは、このような愛です。まさに彼が私たちを愛したように、同じように愛することを主は望んでいらっしゃいます。魅力的に思う人を愛することは自然なことです。世の中さえも、いつもそのようにしています。しかしイエス様は彼に従う者たちに世の中的な態度を求めてはいらっしゃいませんでした。彼の愛によって変えられることを求めており、その結果として愛する人々となることを求めていらっしゃいました。彼らが愛する人々のおかげではなく、キリストを通して得られた彼らのおかげで、愛するようになるためです⁵⁹。

イエス様が愛したように、私たちも愛すべきです。そうしたら、世界が私たちを彼の弟子と認めるようになります。そして、キリストの香りが私たちから漂います。「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。(Ⅱ コリント 2:15)」

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約してみましょう。
2. キリストの新しい戒めは、彼が私たちを愛したように互いに愛し合いなさいでした。彼のように愛するとき、私たちは真のキリストの弟子と呼ばれます。そのため主の愛をはっきりと知るように勧められているのです。私が知るようになった主の愛とは何でしょうか？
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように人生に適応できるでしょうか？

* 祈り *

イエス様がこの世を離れる前、愛する弟子たちに本当に勧めたかったことは、彼が愛したように互いに愛し合いなさいということでした。これが 11 人の弟子たちへの新しい戒めでした。世界が愛するようにではなく、イエス様が愛したように愛することは、私たちにも与えられた新しい戒めです。どうか私たちが愛に成熟しますように、キリストの愛で愛し、キリストの香りを漂わせますように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁵⁷ According to Vine, the phrase has four different meanings: affection, parental care, compassion, and family intimacy. W. E. Vine, *Vine's Expository Commentary on John* (Nashville: Thomas Nelson Publishers, 1997), 164.

⁵⁸ Marrow, *The Gospel of John*, 243.

⁵⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 484-485.

後にはついてきます

ヨハネの福音書 13:36－38

36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ。どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行く所に、あなたは今はついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。」

37 ペテロはイエスに言った。「主よ。なぜ今はあなたについて行くことができないのですか。あなたのためにはいのちも捨てます。」

38 イエスは答えられた。「わたしのためにはいのちも捨てる、と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

ペテロは「主よ、どこにおいでになるのですか？ 主よ、なぜ今はあなたについて行くことが出来ないのですか？」と聞きます。主の心は、彼の友・ペテロのおかげで再び温かくなったことでしょう⁶⁰。ユダは結局、イエス様と愛の関係を結ぶことを拒みました。しかし、イエス様とペトロの間には、美しい愛の関係が築かれました。

「あなたのためには命も捨てます」とペトロは言い、オリーブ山で剣を振り回しながら自らの命を危険にさらすことで、イエス様への彼の愛を表しました。しかし最後の瞬間、死の影が近づいたとき、彼は他の弟子となんら変わらず、主を見捨て、主を否認さえました。ペテロ自身よりも彼のことをよく知っておられる主は、その夜に彼が主を知らないと言うことを前もっておっしゃいました。ペテロはその言葉にショックを受けましたが、その後イエス様が予言されたとおりになるのです。

なぜこのような悲劇が起こったのでしょうか？

イエスに従うことを英雄的な行動だと考える人は誰でも、ペテロと同じ失敗を繰り返すことを避けられません。イエスに従うことは、主のお召しに答えることであり、主に従うという行動によって、お召しと反応の両方ともが私たちに与えられた主のギフトであり、私たちの功績ではないことに気づくことです⁶¹。

主はいつも変わりませんが、状況が変わると私たちの優れた能力は変わり、信頼できません。私達は神様の前にあまりにも弱い存在です。

人の能力による楽観的な予測を指針にしないようにと、私達は警告されています。クリスチャンは、他のすべての人よりも、自らの弱さと、神様の助けが常に必要であることに気づいているべきです。私たちが持っているすべて、そして私たち自身は、主によるのです⁶²。私たちに必要なのは、信頼の置けない自らの優れた能力ではなく、主の恵みなのです。謙遜に主を求め、主の恵みを求めるべきです。

結局、ペテロは十字架から離れました。しかしイエス様は、ご自分の命を愛する者たちに与えることを決め、十字架の道を行かれました。十字架の道は、最高の愛の道であり、最高の犠牲の道です。

「イエスは答えられた。『わたしが行く所に、あなたは今はついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。』」

弟子たちは主の行くところ、つまり父の愛の懷へ、ついて行くことが出来ませんでした(1:18、17:24 後半)。その理由は、彼らが主に示された永遠の愛で互いに愛し合っていなかったからです⁶³。私たちに与えられている主の新しい戒めは、私たちが互いに愛し合う愛が、主が私たちを愛してくださった愛と同じようになるべきだというものです。この犠牲の愛で愛するとき、私たちも神様の懷へといけるかもしれません。

「イエスは答えられた。『・・・しかし後にはついて来ます。』」

イエス様が臆病者のなかにも英雄的要素を見出したというのは、主の素晴らしい面です。主は私たちの内面を見ます。私たちが何者かだけではなく、主が私たちに何を整えられたかを見ます。イエス様には、私たちがどんな者になるのかを見る愛があり、それに達するよう私たちを整える力があります⁶⁴。イエス様に従う理由は、私たちに注がれる主の愛のゆえではありませんか？

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約してみましょう。
2. 今日のメッセージに基づく、主に従うということの本当の意味とは何でしょうか？
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

ペテロが主のために命を捧げますと豪語したその夜、その同じ夜に彼はイエスを否認しました。ペテロの主に対する愛は美しいですが、彼の愛は状況に応じて変わっていくものでした。彼の愛は主の愛とは違いました。主の愛は、ご自分の命さえもとどめてはおきませんでしたが、すべてを差し出しました。これは最高の犠牲です。あなたの恵みのうちに、私たちがこの愛に似て、あなたに従えますように願います。イエス様の御名によって祈ります。

アーメン。

⁶⁰ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 261.

⁶¹ Marrow, *The Gospel of John*, 247.

⁶² Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 487-488.

⁶³ Lightfoot, *St. John's Gospel: A Commentary*, 268.

⁶⁴ Barclay, *The Gospel of John*, 177.

もし私を知っていたなら、父をも知っていたはずです

ヨハネの福音書 14:1-7

1「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
2わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。
3わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。
4わたしの行く道はあなたがたも知っています。」
5トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」
6イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。
7あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずです。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」

弟子たちは、船や網、父親などすべてを後に残して、イエス様に従いました。今彼らの前に展開されようとしていることは何でしょうか？ イエス様が彼らを離れ、彼らが付き従えない場所へ行こうとしています。そして、それは遠い未来に起こるのではなく、今起きていることなのです。

弟子たちは、この惑星における歴史上、最も暗黒な3日間に直面しようとしていました。どんな支柱も、錨も、ランドマークも、導いてくれる星さえも、流されてしまいます。イエス様はじっと横たわり、死んで冷たくなり、体は傷で穴だらけ、声は聞こえず、彼の(地上での)存在はなくなり、人格は人々が到達できないどこか墓の向こう側へ移動しました⁶⁵。

この状況下での弟子たちの混沌、恐怖、失望感を考えてみてください。

イエス様は、悪い世の中に残す弟子たちのことを気にかけて、準備しておられます。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。(ヨハネ 14:1)」

いまイエス様は新たな平安について話しています、「信じなさい」⁶⁶。たとえ死の影があなたを飲み込もうとしても、主を信頼しましょう。神様を信頼し、キリストを信頼しましょう。この信頼があれば、心は騒がず、むしろ平安を得ます。

神様に示すことは何でも、イエス様にも示しているものです。神様への信仰とイエス様への信仰に一分の違いもありません。イエスは神であり、神は神です⁶⁷。パスカルが言ったように、「イエス・キリストを通してのみ、私達は神を知る(Pensées 547)⁶⁸」のであり、イエス・キリストを通してでなければ誰も父のもとへ到達できないのです(ヨハネ 14:6)。

数時間のうちに、イエス様は神の道に反対する人々によって殺されますが、主は「私は道である」と言うでしょう。悪い人々の嘘のせいでイエス様に死がもたらされ、彼らの勝利が目の前にあるとしても、イエス様は「私は真理である」と言うでしょう。そして、生気を失った彼の体が墓に置かれたとしても、彼はすぐに「私が命である」と言うでしょう⁶⁹。イエス様は、神様が彼の死を通してデモンストレーションを行うことを知っていたのです。神様が、イエス様こそ神に至る道であること、イエス様こそ真理そのものであること、その死を通して永遠の命を、世に知らしめようとしていることを、イエス様は良くご存知でした。イエス様を通してでなければ、私達は神様を知ることが出来ず、神様のもとへ行くことができません。

「あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずです。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」(ヨハネ 14:7)

イエス様を知ることは、神様を知ることです。「誰も見たことがない」(1:18)神であり、その「声を聞いたものではなく、その姿を見たものはない」(5:37)神です。プロローグで言っていた、「神であり」(1:1)「肉となり、私たちの間に住んだ」(1:14)言葉の栄光が、ここに記されているのです⁷⁰。イエスを知る者は、実に神を知っており、神を見ているのです。実にイエスこそ、私たちにとっての道であり、真理であり、命です。

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 人類は神を見るために様々な挑戦をしてきました。今日のメッセージによれば、「イエスを知ることは、神を知ることであり、神を見ることです」。この宣言の意味を、神を知ろうとする人間の限界について考えながら、説明してみましょう。
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

十字架の影のなかでさえ、イエス様は弟子たちを慰め、神を信じるように彼を信頼するよう語りました。イエス様は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずです。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」と言いました。神様とイエス様は、愛と信仰のなかでひとつとなりました。愛と信仰だけが私たちを神様につなぎとめてくれることを覚えるようにさせてください。またイエス様の愛と信仰をもっと知り、その愛と信仰に倣って生きられますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



The Father and the Son
by Ginturn H. Tran

⁶⁵ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 263.

⁶⁶ Ibid., 262.

⁶⁷ Ibid.

⁶⁸ Marrow, *The Gospel of John*, 248.

⁶⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 494.

⁷⁰ Marrow, *The Gospel of John*, 251.

父と子

ヨハネの福音書 14:8-14

8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」
9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。
10 わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。
11 わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。
12 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。
13 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。
14 あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。

ピリポはイエス様に、父を見せてくださいと言いました。ピリポはトマスと何の違いもありません。トマスは復活したイエス様に会わず、イエス様の手のひらに釘の痕を見て、そこに指を入れてみるまでは、主の復活を信じないと主張していました(20:25)。

イエス様がトマスに語った言葉に注意を払う必要があるでしょう。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。(20:29)」

イエス様が求めた信仰、そして今なお、彼を信じる者たちに求めている信仰とは、目に見えるものによる信仰ではありません⁷¹。そうではなく、見ずに信じる者は幸いです。見なくとも、私たちがキリストの言葉を聴いて、私たちの人生において主の働きを目の当たりにするとき、肉体の目では見ていませんが、心の開かれた目で見えるようになるのです。このようにして、私達は信仰にいたります。信仰には2つの異なるタイプがあります。「目に見える信仰」と「目に見えない信仰」です。キリストによって人生が作り変えられた人々にとっては、この2つは決して異なるものではありません。

イエス様はピリポに、実際にはこのように言いました。「私を見なさい、私を見なさい！そして信じなさい！」これもまた、クリスチャンの信仰に至る道です。クリスチャンの信仰に至る道は、イエス様のことを議論することではなく、主のことを聴き、主を見ることです。もしそのようにするならば、私たちに起こる完全に個人的な影響が、私たちを信仰へと導くでしょう⁷²。

イエス様は鮮やかに神様を示しました。イエス様の存在すべてが私たちのためであり、彼は父の御心に完全に従っていました。「私の中に住まう父が、働いておられる」と言うことで、彼はそれをより明らかにしています。御子の「働き」すべては、御父の御心を成すことです。そのため、彼の働き、彼が示すこと、彼が語ること、彼がもたらす奇跡、それらすべては御父の働きなのです⁷³。つまり、イエス様は父の御心の実行者なのです⁷⁴。

神は御父であり、慰めの神であり、憐れみ深い神であり、家と家族を持つものです。主はこの名前を神様に対して何度も使いました。いかにヨハネがよく覚えていたことか！彼の福音書には、「御父(The Father)」や同様の表現である「私の父(My Father)」という表現が156回も出てきます⁷⁵。イエス様は神様を「私の父」と呼びます。父と子の関係とは、離すことの出来ない一致の関係です。子は父の中に住まい、父は子のなかに住まいます。キリ

スト教は、信仰を信じるものではありません。イエス様の中に表された神様を信じるのです。御父がイエス様の中にあり、イエス様が御父の中にあることを信じる信仰です。これに満たないものはすべて、クリスチャンの信仰ではありません⁷⁶。

イエス様は、ご自分の名前で願うことはなんでも成そうと約束しました。彼の名前が神の子の人間としての命、あがないの死、力強い復活、そして聖霊の力強さの中で救いのメッセンジャーを送り出すことを、私たちの脳裏に明らかにしてくださいます⁷⁷。そのため、イエス様の名前で祈ることは、神の顕現であるイエス様が人生を通して成し遂げたかったご意思に従って祈ることを意味します。イエス様のご意志に従って祈る者は誰でも、彼の祈りが成し遂げられることを確信できるのです。

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章を説明しましょう。「クリスチャンの礼拝は、私たち自身の力では決して成されるものではありません。私たちの救いのために神様がキリストにおいて成し遂げられた基盤の上にのみ、そしてたゆまない神様の助けの中でのみ、進められます。⁷⁸」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適応できるでしょうか？

* 祈り *

神を見たいと願う者に、イエス様はすでに神を見せたと言いました。彼は、御子の言葉を聴くように勧め、御子の働きを見るように勧め、彼のうちにある神を信じるよう勧めました。御父と御子は、愛の中でひとつとなりました。人生の中で、働きの中で、そしてすべてにおいて、彼らはひとつとなりました。イエス様は御父の名前を呼ぶ祈りの人生を生きました。私たちも、イエス様の名前において祈ることを願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁷¹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 498.

⁷² Barclay, *The Gospel of John*, 190.

⁷³ Marrow, *The Gospel of John*, 254.

⁷⁴ Ibid.

⁷⁵ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 269.

⁷⁶ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 499.

⁷⁷ Ibid., 500-501.

⁷⁸ Ibid., 501.

もし私を愛するなら

ヨハネの福音書 14:15-17

15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。
16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。
17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住むからです。

「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。(ヨハネ 14:15)」

イエス様の教えの中で、愛は常に、最初であり最後であり、始まりであり最後です。イエス様の人生は、彼が天から愛のゆえに下ってきたために始まり、彼は愛の人生を生きて、愛のゆえに天国へと帰っていきました。この愛の主は「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」とおっしゃいます。

愛と、戒めを守ることが、いかに一緒に存在しているかに注目しましょう。愛する人は、戒めを守ります。それは何かメリットを得たためだったり、報いを得るにふさわしかったからだったり、ハートを射止められたりしたためではなく、それが私たちをとて愛する方、そして私たちがとても愛する方が、私たちにそう生きて欲しいと示している道であるからです⁷⁹。

戒めを守ることを一言で言うと、「従順」です。ヨハネにとって、愛のテストはたったひとつで、そのテストとは従順でした⁸⁰。もし正しく愛するならば、あなたの置かれた状況がどんなにひどくとも、いかにひどい艱難が来たとしても、あなたの愛する方の意思に従うでしょう。もし本当に愛するなら、ただ愛のゆえに、あなたはどんな状況においても静かに従うでしょう。そのため従順こそがたったひとつの愛のテストなのです。

イエス様は、この愛のテストを乗り越えられた方です。たとえ恐ろしい死に導かれても、正しく神様を愛していたので、最後まで静かに従いました。

従順という言葉は、今日の私たちにとてもあまりにもなじまないものです。私たちは神様を愛し、神様に愛されたいと思いますが、神様のご意志に従いたがらないと告白します。讃美歌を歌いますが、従順の道について熟考しません。

キリストの愛の真理は、とてもシンプルに宣言されます。「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。(ヨハネ 14:15)」

誰かに従うことは、決して簡単なタスクではありません。私たちの弱さをご存知である主は、私たちを一人で茨の道に放って置いておくようなことはせず、「助け主」を送ってくださると約束されます。

この助け主とは、parakletos という言葉から来ており、英語の聖書では advocate(擁護者や仲裁者)、helper(NRSV)(ヘルパーや助力者)、comforter(KJV)(慰める人)、counselor(NIV/RSV)(カウンセラーや弁護士)などと訳されています。真理の霊、つまり聖霊を指しています。イエス様が地上での宣教を終え、父のみもとに帰ったとき、聖霊が弟子たちに遣わされ、彼らのそばにいらなくなったのでした。

つまり、イエス様が仰っていることは、「あなた方に困難なタスクを与えます。非常に難しい仕事へ送ります。しかし、私はあなた方に parakletos を送ります。

何をすべきかガイドしてくれて、それが成し遂げられるよう整えてくれる者です。聖霊があなた方に真理をもたらし、真理のための戦いに対処できるようにして下さいます。⁸¹」愛の主は、聖霊をギフトとして私たちに与えてくださり、今日もまた私たちの歩みを導いていらっしゃる。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章を説明しましょう。「キリスト教は信念ではなく、生きているキリストです。規範に従う問題ではなく、人に従う問題なのです。それは法律ではなく、愛なのです。この宇宙で最も優しく、最も正しく、最も力強く、最も愛なる方への愛です。キリスト教は神学的な見解ではなく、イエスを愛することの選択です。残りのものは、当然後からついてきます。⁸²」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

愛する者は従い、従う者は愛します。この愛は状況によって変わることなく、無条件の愛で、最後まで愛する愛です。イエス様は神様を愛し、最後まで従って、彼の命を捧げました。聖霊の助けによって、愛と従順の主に従いながら、私たちが愛と従順の人生を生きるようにしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁷⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 502.

⁸⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 193.

⁸¹ Barclay, *The Gospel of John*, 195.

⁸² Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 271.

わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます

ヨハネの福音書 14:18-24

18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。
19 いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからです。
20 その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。
21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」
22 イスカリオテでないユダがイエスに言った。「主よ。あなたは、私たちにはご自分を現わそうとしながら、世には現わそうとなさらないのは、どういうわけですか。」
23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。
24 わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。

その夜は、イエス様が弟子たちと共に過ごす最後の夜でした。明くる日、イエス様は死にます。いま、主は離れ、弟子たちはこの世に残されるのです。夜が深まるにつれて、絶望、むなしさ、そして混乱と恐怖の波が彼らを襲いました。愛の主は彼らに約束されます。「わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。」

イエス様は引き続き、神秘的な世界について語られます。「その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。(ヨハネ 14:20)」とても美しい愛の世界です。神様がイエス様を愛され、イエス様が神様を愛する。神様が人を愛し、イエス様が人を愛し、人はイエス様を通して神様を愛する。そして人は互いに愛し合う。天と地、神と人、人と人がすべて愛の絆で結ばれる⁸³。イエス様は去ろうとしていますが、愛の絆でご自分とあなたをつなぎ、あなたの中に私がおり、私の中にあなたがいるようになるとおっしゃいました。この愛の中で、イエス様は今日も私たちのうちに愛の関係を築き、私たちを導いていらっしゃる。

先に学んだように、イエス様の愛のうちにとどまる者は彼の戒めを守ります。なぜなら「従順こそ唯一の愛の証明」だからです⁸⁴。キリストがご自身を表すのは、彼の戒めを守る者です。神様との交わり、神様の啓示は愛によります。そして、愛は従順によります。私たちが神様に従順すればするほど、より一層神様を理解することが出来ます⁸⁵。

イエス様は「わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」と言いました。誰とともにでしょうか？ イエス様を愛する人とです！

神はこの世の高さや強さ、君主や大統領、裕福な人や有名な人、学問をなした人や素晴らしい人によって感銘を受けるものではありません。神は、神を愛する男性、女性、少年、少女にたまらなくひきつけられるのです。神がそう望むなら、この惑星上でイエスを愛するすべての人々に、神は住まいを用意して下さいます。そのようにして、彼らを宇宙の貴族としますのです⁸⁶。

私の愛する主は、イエスを愛する者から決して離れず、永遠に彼の愛の中に住まわせて下さいます！ この主の愛のおかげで、厳しい寒い冬は寒くならず、悲惨な困難が私たちを失望させることはありません。

＊質問＊

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「愛がなければ、従順はない。愛だけが、主の戒めに人をとどまらせられる唯一の力だ。⁸⁷」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのようにして自分の人生に適應できるでしょうか？

＊祈り＊

私の心がひどい絶望感やむなしさに暗くなっているとき、主が近くにいと感じられないとき、一人ぼっちだと感じるとき、今日の主の約束を思い出すことを願います。死の現実の前で、主は愛の約束をくださいました。あなたは、あなたを愛し、あなたの戒めを守る者を離れず、愛の絆で永遠につないで共にいてくださいます。私の主よ、あなたはそのような人と共にいて、共に住みたいと望んでいらっしゃる。主を愛します。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁸³ Barclay, *The Gospel of John*, 197.

⁸⁴ Ibid.

⁸⁵ Ibid., 198.

⁸⁶ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 277.

⁸⁷ Ibid., 278.

十字架の神秘

ヨハネの福音書 14:25－31

25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。

26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

28 『わたしは去って行き、また、あなたがたのところに来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜ぶはずで、父はわたしよりも偉大な方だからです。

29 そして今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。

30 わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。

31 しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。

主は決して主を愛する者のそばを離れず、聖霊と主の本当の平安を与えてくださいます。この平安は世の中の偽りの平安ではありません。死が私たちに及ぶとしても、死の現実を心配したり、恐れたりすべきではありません。私たちが心配すべきことは、主を愛しているかどうかです。私たちが信じる愛の主は、私たちのことを忘れません。主は、真理についてすべて明らかにする聖霊が永遠に私たちと共にいるようにと送ってくださいます。

主は、ご自分が十字架につけられることが、ご自分よりも優れている父のもとへ行くだけのことだと言いました。父のもとへ行った後、主は父のそばにとどまっているだけでなく、私たちのもとへ帰ってきます。彼はこれほどまでに愛深い主です。そのため、私たちは喜ばずにはいられません。

いま十字架が皆の目の前に迫ってきています。終わりが近く、「この世の王」が迫っています。「この世の王」はサタンを意味します。サタンが支配しているのはこの世なのです⁸⁸。「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。(Ⅱコリント 4:4)」サタンがこの世を征服し、支配しているとしても、イエス様にとっては「何ものでもありません」、なぜならイエス様には罪がないからです。イエス様の中には、サタンが取り沙汰できるものが何もないのです⁸⁹。

最終的には、この世の王はイエス様を十字架に追いやりました。最悪の呪い、最悪の恥のように見えます。「その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地を汚してはならない。(申命記 21:23)」確かにサタンが勝利したように見えます。

しかし、本当の勝利はイエス様に属しています。十字架は、御子が正しく御父を愛し、御父に従ったことを全世界に知らしめたのです。御子は父の愛に信仰で従ったのです。

主の十字架は、美しい愛の話で、父と子の間の従順です。父と子は愛と信仰で一つとなりました。愛し、従順した主の人生に従うようにと、私を駆り立てます。

十字架は最も輝いていて、最も温かい光です。この光は、主の真理の光で私たちの暗い心を輝かせるほどに、非常に輝いていて強いものです。この光はとても温かいので、私たちの凍った心を溶かし、まさに主が私たちを愛したように、私たちも主への愛を告白するよう導く涙につながります。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、主の十字架の意味を説明しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

主の愛と従順は本当に驚くべきものです。恥と呪いの十字架が、主の愛と従順のなかで最高の愛の十字架となりました。十字架の話を聞くと、私たちの心が一層謙遜になることを願います。この尊い人生の真理から離れることなく、永遠に私たちの心に刻むことが出来ますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



Death works in me, but life in you

死が私のうちに働くが、あなたの中には命がある

by Jeongmi Kang

⁸⁸ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 513.

⁸⁹ Ibid.

私はぶどうの木、あなたがたは枝です

ヨハネの福音書 15:1-8

1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。
2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。
3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいです。
4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。
5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。
6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。
7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。
8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。

イエス様はご自分のことを、まことのぶどうの木だとおっしゃいました。これほどまでにイエス様に合う比喻はないでしょう。

このぶどうの木は、命の血を私たちに与えるために生きます。その花は小さく、その実は数多く、実が熟してぶどうの木が美しい時期を迎えると、ぶどうの実りは取り去られ、ぶどうの木は幹まで刈られ、翌年にまた花を咲かせます⁹⁰。実に、イエス様はまことのぶどうの木の人生を歩まれました。

ぶどうの木のたとえは、深い真理を教えてください。イエス様はぶどうの木であり、私たちが枝です。ぶどうの枝が木につながっていなければ、使い物になりません。ぶどうの木材は家具や建築、キッチン道具などには使われません。また帽子をかける釘にも使われません。ぶどうを实らせないぶどうの枝は価値がありません⁹¹。

ぶどうの木から刈られた枝の運命は、投げ捨てられ、枯れるのです。そのような枝は拾い集められ、火にくべられて燃やされます。

一方、木につながっている枝は、豊かな実を結ぶようになります。枝がぶどうの木から離れると、確かに実を結ぶことは出来ません。ぶどうの木につながっている限り、自然に実を結ぶようになります。豊かな実りは、肉体的な自然なエネルギーによって成し遂げるようなものではなく、私たちがキリストの中にいるとき、十分自然についてくる結果なのです⁹²。

イエス様は最も豊かな実りを結ぶ人生を歩まれました。イエス様の人生の秘訣は、神様とのつながりでした⁹³。イエス様がいつも神様の中にとどまっていたように、私たちはイエス様の中にとどまっているべきです。そのようにとどまっている人生とは、豊かにあふれている人生です⁹⁴。私たちの人生で非常に重要な要素は、私たちがイエス様の「中に」いて、彼が私たちの「中に」いることです。このような継続的で近い接触がなければ、私たちの人生はいつも実りがないものとなるでしょう⁹⁵。

それゆえに、私たちはイエス様とつながっているべきです。枝である私たちが、イエス様のぶどうの木とつながっている限り、たくさんの実りを結ぶことが出来るでしょう。

「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。(ヨハネ 15:8)」イエス様は多くの実りを少数の優れた聖人から求めたものではありません。イエス様は私たち一人ひとりに豊かな実りを結ぶ人生を期待しておられます。そしてイエス様が話しているのは多くの実です。もし最小限で満足するなら、弟子にふさわしい姿

ではありません。イエス様は彼に従う者全員に、ただ実を結ぶことではなく、多くの実を結ぶことを期待しておられます⁹⁶。

ぶどうの木のたとえが教えてくれることは何でしょうか？

実りは枝によるのではなく、木から来るものです。枝がぶどうの木につながっている限り、豊かな実を結びます。これが、私たちが覚えるべき真理です。

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「豊かな実りは、私たちの才能によらず、主とのつながりによる。」⁹⁷
- 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

主はぶどうの木で、私たちは枝です。わたしたちがつながっている限り、あなたは私たちの人生に多くの実を結ばせてくださいます。この言葉が私たちの魂にどれほどの慰めとなるでしょうか。ぶどうの木が実を生むとき、すべてが収穫されて木は幹まで刈られます。しかし、その木は命の血を与え続け、翌年には再び花を咲かせます。同じように、主はまことのぶどうの木です。あなたから離れては、命はありません。主の弟子であることに誇りを持ち、神様に栄光を帰す私たちとなりますよう願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁹⁰ Temple, *Readings in St. John's Gospel*, 252-253.

⁹¹ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 288.

⁹² Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 519.

⁹³ Barclay, *The Gospel of John*, 205.

⁹⁴ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 289.

⁹⁵ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 518.

⁹⁶ Ibid.

⁹⁷ Ibid.

愛と喜び

ヨハネの福音書 15:9－13

9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。

10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

13 人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

真理は、愛された者のみ愛することが出来るというものです⁹⁸。イエス様は御父から完全に愛された唯一の愛の御子です。イエス様は、父から受けた愛と共にあって、私たちを愛しました。彼の愛が決して渴かなかった理由は、それが父から来たものだからです。

この世には多様な愛があり、さまざまに愛する人々がいます。決して渴かないイエス様のこの愛とは何でしょうか？ クリスチャンの愛は、他の愛とどう違うのでしょうか？

愛は、さまざまな色で表されます。ロマンティックな愛、家族の愛、友達の間での愛——このようなものはすべて豊かな人生の一部です。しかし、はっきりしなければならないのは、それらは素晴らしいものですが、イエス様がここで使う「愛」とは違います。たとえば死を意味するとしても貫き通すような愛についてイエス様は語っています⁹⁹。イエス様の愛は最高の愛です。この愛は、友人のために命を投げ出した愛です。この愛は、すべてを与えてもなお、もっと与えられる者は残っていないかと探すような愛であり、ついには最後に残った命さえも与えるような愛です。

イエス様は、最後の晩餐の席に集まった者たちを友人と見なし、彼らのためにご自身の命を与えると決めました。しかし、その中の一人がユダでした。彼は、イエス様が話すとともに、彼を裏切るために出て行きました。他の者たちはその階上の部屋で、誰が最も偉いかと言い争っていました(ルカ 22:24)。ゲッセマネでは、イエス様が3人の弟子たちに彼の激しい苦しみのときを見ていて欲しいと願ったとき、彼らは眠ってしまいました(マルコ 14:33、37)。そして、兵士たちが来たとき「彼らはイエス様を見捨て、逃げました」(マルコ 14:50)¹⁰⁰。

イエス様は大切な命をこうした罪人たちに与えました。彼らのすべての悪行や弱さにもかかわらず、イエス様の愛は無条件であり、罪人を愛しました。

クリスチャンらしい愛とは、感情的なものではありません。愛する者へのあふれる感情におぼれるものではありません。愛とは、十字架に見られるものです。キリストが罪人のために彼の完璧な人生を捧げたとき、彼が見せたものです¹⁰¹。

ユダヤ教徒、イスラム教徒、多神教徒、いわゆる無神論者さえも、ときに最高の寛容さと完璧な無私無欲で愛せずにはいられないことがあり、命を捧げることもあります。クリスチャンを区別するものは、ただこれだけです。「愛するとき、キリストが彼らを愛したように愛し、キリストが彼らを愛したから愛するのです。」その愛を「クリスチャン」とするものは、その量や質ではありません。「クリスチャン」を形作るものは、イエス様が彼らを愛していることへの信仰であり、その愛の中にとどまっていることであり(15:9)、それ以外の何ものでもありません¹⁰²。

アウグスティヌスは「愛しなさい、そしてあなたの好きなことをしなさい」と言いました。しかし、アウグスティヌスのことを慎重に理解せねばなりま

せん。彼は、私たちが愛するならば、私たちの選択によって人生が良くなったり悪くなったりする事から幸せに生きられる、と言っているのではありません。彼は、クリスチャンらしい愛について本当に理解するならば、私たちにクリスチャンの生活について他のガイドは必要ないと言っているのです¹⁰³。

イエス様が私たちを愛したように愛せれば、十字架の影のまえに漆黒の間の中でその輝きが叫ばれる、主の真の喜びが、私たちの人生のなかにあふれるでしょう。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約してみましょう。
2. 今日のメッセージに基づいて、次の文章の意味を説明してみましょう。「喜びとは、出来事に非常に大きく影響される喜びのようなものではありません。主の心は、たとえゲッセマネが数百ヤード(数百メートル)先にあるとしても、喜びで満たされていました。彼が恥にもかかわらず、十字架に耐えたのは、その喜びのためでした。喜びは聖霊の実のひとつで、愛に次ぐものです。彼が私たちに与えたこの喜び、従順に基づく喜びは、一方を愛で、もう一方を平安で守っています。喜びは、まるで私たちの涙の上に輝く虹のようなものです。¹⁰⁴」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

神の愛に満たされたイエス様が私たちを愛してくださいました。私たちもまた愛の人生を、イエス様に与えられた愛に満たされた人生を生きられますように願います。イエス様が父の戒めを守り、その愛のなかにいたように、私たちも彼の戒めを守り、その愛のなかにとどまって、主のまことの喜びを楽しめますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

⁹⁸ Marrow, *The Gospel of John*, 275.

⁹⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 524.

¹⁰⁰ Ibid.

¹⁰¹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 523.

¹⁰² Marrow, *The Gospel of John*, 279.

¹⁰³ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 523.

¹⁰⁴ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 291.

あなたがたが私を選んだのではない、私があなたがたを選んだ

ヨハネの福音書 15:14-17

14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。

15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。

16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。

17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

イエス様は選択について重要な真実を語っています。神様を選んだのは私たちではなく、神様が私たちを選んだのです。選ばれることは私たちの実績ではなく、神の恵みによるのです。私たちの行動はすべて反応です。主導権はすべて主と共にあります¹⁰⁵。

主は私たちのもとへ来て、呼んで、選んでくださいました。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛しました。・・・ここに愛があるので。(I ヨハネ 4:10)」神様と私たちとの関係は、私たちが神様を愛したためではなく、神様がまず私たちを愛してくださったことによって始まりました。

イエス様が私たちを先に見つけ、「友人」と呼んでくださいました。イエス様が私たちを彼の友と呼んでくださり、神の友と呼んでくださいました。とても素晴らしい提案です¹⁰⁶。

イエス様は私たちに彼の“パートナー”となるよう呼んで下さいました。奴隷は決してパートナーにはなれません。ギリシャの法律では、奴隷は“生きている道具”と定義されています¹⁰⁷。奴隷は、説明もなく理由も分からず、命じられたことをしなければなりません。奴隷は主人の職務について知らないのです。しかしイエス様は私たちを友と呼び、心を自ら開いて、私たちのところへ来て、御父の深い真理を語ってくださいました。彼は私たちに彼の職務を語り、私たちをパートナーと呼びました。

私たちが愛する前に、主は先に私たちを愛してくださいました。私たちが知る前に、主は先に私たちを選んでくださいました。彼は私たちを友と呼び、共に彼の仕事を行うよう招いてくださいました。私たちの主は、私たちの職務を気にせず、私たちに関係なく支配するような主人ではありません。彼は私の友であり、彼の心を解き明かして共に働きたいと願ってくださる私の主なのです。

さらに、イエス様は私たちを“大使”として選んでくださいました¹⁰⁸。まるで大統領が配下の大使を国家の代表として派遣するように、主の大使も代表者です。主によって選ばれ、主の御意思と任務を示すべく主に遣わされます。主はこの世界からリタイアした人生を歩むよう私たちを選んだのではありません。主はこの世に彼を知らしめるよう、私たちを選んだのです¹⁰⁹。

主は私たちの状態によらず、ただ恵みによって、私たちを選ばれました。私たちを友と呼び、世界に遣わしました。この愛に答えるだけで、その恵みが実を結びます。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づいて、次の文章の意味を説明しましょう。「クリスチャンであることは、私たちがしていることではありません。私たちのためになされたことです。たとえ私たちが愛によって突き動かされる従順の形で適切な反応をすべきだとしても、私たちによって成されたことではありません。¹¹⁰」
3. 今日のメッセージから得られた教訓を、どのように人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

主よ、私たちがあなたを知る前に、あなたは私たちを知っていました。あなたが先に私たちを愛し、呼び、選んで、友としてくださいました。とても素晴らしい恵みであり、美しい世界です。あなたが私たちをご存知で愛してくださったように、私たちもあなたを知り、愛するよう願います。あなたが呼んでくださり、選んでくださったという恵みをこぼすことのないよう願います。愛のうちにあなたの言葉を行動に表し、あなたのまことの友となれますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁰⁵ Temple, *Readings in St. John's Gospel*, 269.

¹⁰⁶ Barclay, *The Gospel of John*, 208.

¹⁰⁷ Ibid.

¹⁰⁸ Ibid., 209.

¹⁰⁹ Barclay, *The Gospel of John*, 209.

¹¹⁰ Temple, *Readings in St. John's Gospel*, 269.

世はあなたがたよりも私を先に憎んだことを知っておきなさい

ヨハネの福音書 15:18-21

18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。

19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。

20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。

21 しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行ないます。それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです。

世界はキリストを憎んでいました。キリスト、愛の王は、神の愛によってこの世に遣わされました。しかし、この世は彼をひどく憎み、彼の愛を受けたにもかかわらず、彼を迫害しました。

同じ憎しみでもって、この世はキリストに従う者を憎みます。Pax Romanaの時代、ローマ帝国の平和がこの世を覆っていました¹¹¹。しかし、クリスチャンはローマ帝国の平和を恐れていました。クリスチャンがキリスト以外に王はいないと主張するため、政府がクリスチャンを迫害したためです。クリスチャンがキリストを前に置いたため、迫害が彼らにきました。そのようなことを行う者にはいつも、迫害が来るのです¹¹²。

ウィリアム・テンブルは、この世は「天使のようであるからといって憎むことはないが、クリスチャンのようである者は憎む。この世は彼らの新たな性質を憎むのだ。世界は、彼らの平安にゆえに苦しめられ、彼らの喜びのゆえに激昂する。¹¹³」

イエス様は「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい」とおっしゃいました。イエス様に対する憎しみが、イエス様に従う者たちへの憎しみを生みました。イエス様に従うがゆえに軽蔑されたり、憎まれたりするならば、彼の言葉を思い出し、イエス様がよりひどい冷笑や憎しみを私たちよりも先に乗り越えられたことを知るべきです。そして、慰めと、すべてのことを乗り越える勇気を得るでしょう。

「わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのである。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。(マタイ 5:11-12)」

この世はその持ち物を愛しますが、世のことよりも天のことを慕うクリスチャンを憎みます。究極的には、クリスチャンはこの世に属していません。私たちはこの世に生きていますが、私たちの存在の基礎は神から来ています。神様は無条件の愛によって、この世から私たちを選び、呼んで下さいました。このようにして今日の私たちがあるのです。

今日のメッセージから得られるもう一つの重要な真理は、世界がキリストとクリスチャンを憎むことは究極的だということです。なぜなら世界が神様を知らず、キリストを遣わした方を知らないからです。言い換えれば、この世の憎しみは神を知ろうとしないことの結果です。

私たちは、この世の憎しみと神の愛の狭間に立っています。しかしながら、この世界が私たちを憎むとしても、どんな力も、何ものも、私たちの主、イエス・キリストにある神の愛から私たちを引き離すことは出来ません！

「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかの

どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。(ローマ 8 : 38-39)」迫害があるとしても、パウロ使徒のこの美しい告白が私たちのものとなりますように願います。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章を説明しましょう。「クリスチャンの基本的な要求は、違うものであることへの勇気を持つべきだというものです。違うものであることは危険ですが、そのリスクを受け入れることなしには誰もクリスチャンにはれません。なぜならこの世の人とキリストの人には違いがあるからです。¹¹⁴」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

この世で最悪の憎しみが、十字架において明らかにされました。しかし、同じ十字架において、最もすばらしい主の愛が、全世界中にはっきりと示されました。世は憎みましたが、主は憎しみに憎しみを返しませんでした。その代わりに、主は最高の愛をこの世に与えました。あなたは十字架上であなたの命を与えました。私たちが主に似て、たとえこの世が私たちを憎むとしても、この世を乗り越えられますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹¹¹ Barclay, *The Gospel of John*, 213.

¹¹² Ibid., 214.

¹¹³ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 528.

¹¹⁴ Barclay, *The Gospel of John*, 217.

私を憎む者は、私の父をも憎む

ヨハネの福音書 15:22 -16:2

22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。
23 わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいるのです。
24 もしわたしが、ほかのだれも行なったことのないわざを、彼らの間で行なわなかったのなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今、彼らはわたしをも、わたしの父をも見て、そのうえで憎んだのです。
25 これは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。
26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。
27 あなたがたもあかしするのです。初めからわたしといっしょにいたからです。
16: 1 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまづくことのないためです。
16: 2 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。

イエス様が来るまで、人々は神について完全に知る機会を持ちえませんでした。神の声を完全に聞く者はなく、神が私たちに望む生き様を完璧に歩む者もいませんでした¹¹⁵。時が来たとき、イエス様がこの世に来て、この世にはっきりと神様の真理を表しました。イエス様は、彼の言葉と人生で神様の真理を語り、神を私たちに示しました。

しかし、この世はイエス様を拒否しました。イエス様を拒否することは、神を拒否することです。御子と御父は離されたり、分けられたりすることはありません。

今日のメッセージからどんな罪をイエス様は訴えられているのでしょうか？

その罪とは単にイエスへの憎しみとして、すなわち、彼を遣わした御父への憎しみとして定義されます¹¹⁶。主への憎しみは(宗教上の)罪です。最高の戒めが愛ならば、最高の罪は憎しみです¹¹⁷。

主は、これは彼らの法律に書かれていることが成就するためだとおっしゃいました。「彼らは理由なく私を憎んだ(詩篇 35:19、69:4)」彼らの法律、彼らが聖なる書物と見なすものにそう書かれていました¹¹⁸。言葉の警告が成就されるため、キリストを拒否する者たちにその書物の言葉は罪を増し加えました。

この世には、キリストに積極的に反対する人々が大勢います。もしかしたら、キリストなんて来ていないかのように、キリストを無視して生きている人も多いかもしれません。最初の者だけではなく、後の者も、主による罪の告発から逃れることはできません。神の知恵を獲得することを価値あるものと考えず(ローマ 1:28)、キリストが私たちを愛したようにキリストを愛さず、かえって理由もなしに彼を憎むことが、明らかな罪です。主は十字架上で尊い血を流し、全世界に私たちへの愛をはっきりと表しました。隠すことの出来ない主の愛の前に、私たちは何の弁解も出来ません。

神の愛を示すために来られ、奴隷の姿をとって無私の道を行かれた御子を憎み十字架につけて殺した事は、犯罪の中の犯罪です¹¹⁹。

さらに言えば、この罪は神に礼拝していると自認する同じ信仰を持った兄弟たちによって犯されました。誰がキリストを十字架につけたのでしょうか？ 神を知らない世の権力者ではありません。宗教的な権力の中心を成す人々です。これは、歴史上で繰り返される悲劇的な皮肉のひとつです。神に仕えていると自認する人々が、もっとも強いやり方で神の真の奴隷に反対しました¹²⁰。

イエス様が生まれつき目が見えない人を癒した後にパリサイ人に言った言葉が、今日のメッセージと重なります。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。(ヨハネ 9:41)」

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 迫害は、キリストの弟子が逃れることの出来ない運命です。しかし、最悪の迫害はときに、世の中からではなく、神に仕えたと自認する宗教的な権力からもたらされます。イエス様のこの教えに関連しながら、パウロの人生を、次の聖句の範囲内で証しましょう。
使徒 26:9、ピリピ 3:6、Ⅱ コリント 11:26
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

イエス・キリストと神は、離される事がない、一体です。キリストを愛さないことは神を愛さないことであり、キリストを憎むことは神を憎むことです。罪とはキリストを愛さずに憎むことです。主を十字架につけた者は、神に仕えていると誇りを持って信心深い者たちただという霊的な真理を忘れないようにさせて下さい。この恐ろしい罪に陥らないように気をつけることができますように願います。

主が私たちに求めている者はただ愛だけだということを忘れないようにさせて下さい。あなたの言葉が、高慢で石のように硬い私たちの心を新たにし、神に仕えることを拒もうとする私たちの心を新たにしてくださいますように願います。イエス様の御名によって祈ります。

¹¹⁵ Barclay, *The Gospel of John*, 218.

¹¹⁶ J. Ramsey Michaels, *John: New International Biblical Commentary* (Peabody: Hendrickson Publishers, Inc., 1984), 276.

¹¹⁷ Michaels, *John*, 276.

¹¹⁸ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 296.

¹¹⁹ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 295.

¹²⁰ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 537.

あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません

ヨハネの福音書 16:3-6

3彼らがこういうことを行なうのは、父をもわたしをも知らないからです。
4しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしが初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたといっしょにいたからです。
5しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。
6かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

死の影が近づいているその夜、主はご自分のことは顧みず、後に残す弟子たちのことを気遣っておられました。弟子たちがあらゆる苦難に直面することを知っていたので、主は最も重要なメッセージを一つずつ伝え、熱心に勧めました。主が軽蔑され、迫害されたとき、主はまことのクリスチャンの反対は避けられないと警告しました¹²¹。すべての憎しみや迫害は、彼らが本当に神やイエス・キリストを知らないために生じると主はおっしゃいました。主は、弟子たちが彼の最後の言葉から知恵を得ることを望んでいました。その言葉を覚え、これから来る困難を乗り越えるためにです。

死が目前に迫っているような場所で、言い表せないほど悲惨な十字架の受難が待っているような場所で、そして誰もが自分の状況に縛り付けられているような場所で、そのような場であっても、主はひたすらに弟子たちを愛しました。

恋に落ちた人のことを考えてみましょう。もし心底から恋に落ちたならば、彼の考えや感覚すべての中心が、彼ではなく、彼が愛する者へと移ります。彼自身の富よりも、彼が愛する人の必要や幸福を気にかけるようになります。

愛のゆえに、主はご自分の死が差し迫るなか、愛する弟子たちの将来を考えました。もし主が弟子たちと共にいられるならば、弟子たちの前に迫るすべての迫害を避け、ご自分で処理されたでしょう。主は敵が来ることを初めからはおっしゃいませんでした。しかし今、彼がこの世を離れるときが来ました。いま主は彼のすべてを注ぎだし、彼らへの勧めに励んでいます。たとえ弟子たちが今すべてを知らないとしても、後にそのときがくれば、彼らが主の言葉を思い出してくれると信じながら、主は愛で、信仰で、彼らに助言しました。

しかし弟子たちは誰も、主がどこに行くのか尋ねませんでした。もちろん、ペトロとトマスは主に「どこへ行かれるでしょうか」と聞きました。主はそのことを忘れたわけではありません。しかし彼らは、主がここでおっしゃっている意味で、「どこへ行かれるのでしょうか」と聞いたものではありませんでした¹²²。主は心配からの質問を待っていたわけではありません。それは、主が行かれた後、一人残される自らの運命について心配しているに過ぎません。主が待っておられたのは、彼の愛に答える質問でした。

彼らが聞いたのは、「あなたがどこかへ行かれることは、**あなたにとって**どんな意味があることでしょうか？」でした。自己中心的な考えに捕らわれていた彼らが考えられたこととは、自らの悲しみでした。彼らの愛のなかでは、主がこの世を離れられることによって主が幸せになることについて、話し合ったかもしれませんが。もし弟子たちがもう少し自己中心的ではなく、もう少し愛し合う存在であったならば、主が世を離れることについて、主の栄光や喜びが表現されるという考えに近づけたでしょう¹²³。「『わたしは去って行き、また、あなたがたのところに来る。』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わた

しが父のもとに行くことを喜ぶはずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。(ヨハネ 14:28)」もし彼らの考えが主中心であったならば、主よりも優れた方である御父のもとへ主が行かれることについて、喜ぶことが出来たでしょう。

主は、永遠に変わらない愛で受け入れましたが、弟子たちは結局誰も、その愛に気づきませんでした。

「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることはありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。(I コリント 13:4-8)」

私たちの目は、主の愛に開かれているでしょうか？

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約してみましょう。
2. 十字架の死の前に、キリストのイメージは弟子たちのイメージと対照的です。その2つのイメージを思い浮かべながら、自分自身のイメージを診断してみましょう。
3. 今日のメッセージから得られた教訓を、自分の人生にどのように適応できるでしょうか？

* 祈り *

ゲッセマネへと一歩一歩近づかれるその時、愛の主は自分の状況に閉じ込められませんでした。後に残す弟子たちのことを気かけながら、主は彼らに助言し、慰めました。しかし、弟子たちは自らの幸福のみ追い求め、主が行かれる道について気かけませんでした。彼らの心は心配であふれていました。もし私たちが弟子たちのようなイメージを持っているなら、いま悔い改めることができますように願います。主が私たちを愛されたように、私たちが主を愛しますように願います。主を見捨て、十字架の道をお一人で行かせることがないように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹²¹ Morris, *The Gospel According to John*, 600.

¹²² Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 301.

¹²³ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 301.

聖霊のはたらき

ヨハネの福音書 16:7-11

7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。
8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。
9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。
10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。
11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

主は、ご自分が去った後、聖霊を送ると約束してくださいました。弟子たちは、身体的には主と共にいないかもしれませんが、それは彼らにとってより良いことでした。主はいまや、身体的な垣根を越えて、彼らの人生のあらゆる時に共におられるようになったからです。聖霊が最高のギフトであることと、後に残される主の愛についてわからぬまま、弟子たちの心は心配でいっぱいになっていました。

そうした弟子たちに向かって、主は聖霊の働きを説明なさいます。ここに私たちは、聖霊の働きに関するほぼ完璧な要約を見て取ることが出来ます¹²⁴。

聖霊が下ると、罪や義、裁きについて、世に誤りを認めさせます。誤りを認めさせる(elegchein、有罪判決を出す、納得させる)という言葉は、目撃者や裁判にかけられている人、もしくは議論中の敵について反対尋問をする際に使われます。この言葉には、あの人物がまだ認めていない失敗を認めるまで、またはある議論におけるある力の存在を認めるまで詰問するというような意味が付きまといます¹²⁵。

罪、義、裁きとは、私たちの信仰の歩みにおいて根本的な問題です。人には罪の意識がなければなりません。さもなくば、救い主を求めないでしょう。義が成されると信じる信仰がなければなりません。さもなくば、有罪判決を受けた罪人は絶望のうちに死んでしまうでしょう。罪は消える運命にあり、最終的には打ち負かされるという確信がなければなりません。さもなくば、途方にくれた戦士は希望を失い、長きに渡る戦いをあきらめてしまうでしょう¹²⁶。

聖霊が下ると、まず罪に関する世の誤りを明確にします。救いのメッセージは、自らの罪を認めない人には役に立ちません。もし自分が目に見えない病にむしばまれていると知ったなら、医者に行きなさいとその人にそれ以上言う必要はないでしょう。同じように、人が自分の罪に気づいたとき、その人は自然と救いの必要性を感じるようになります。聖霊は、イエス・キリストを認めようとしないう罪を明らかにするのです¹²⁷。

そこに十字架が立っています。神の愛の証拠であり、シンボルです。そして、そこに人々にご自身を捧げられ復活したキリストが立っています。この恵みの神秘を拒むこと以上に、人の心の邪悪さを明らかにするものはありません¹²⁸。聖霊が下るとき、イエス・キリストの十字架を見るように私たちを導き、私たちの罪のすべてを明らかにします。

イエス様は御父のもとへ行きました。それゆえ、彼は救い主、そしてあがない主として認められました。彼は人の自然に則って御父のもとへ行きました。そして明らかに、人は神の愛の目的であり、神と和解・調和しており、

子や相続人としての権利と特権が認められています¹²⁹。御子が御父のもとへ去ったとき、御父の愛ははっきりと私たちのうちに示されました。聖霊が下り、神の愛を輝かしく明らかにし続けるキリストの十字架を見るように私たちを導きます。

聖霊は裁きに関して世に誤りを認めさせます。罪から自由になり、キリストにおいて義とされると、私たちは罪に対するとてつもなく大きなもがきに直面するようになります。過去の罪は確かに赦され、良心の声は静かになり、罪人は義人として認められたと知って喜びますが、いまだに古い誘惑が不意に現れるのです¹³⁰。

私たちが覚えるべきことは、私たちが信じる主が勝利者キリストだということです。福音全体は、私たちの主がサタンを永遠に征圧したという闘争の話です。この戦いは、荒野で一人で誘惑に耐えられたときに始まりました。それはキリストのこの世の働きに広がりました。それは十字架において頂点に達しました¹³¹。十字架は、この世界の歴史の危機でした。この世の王が神の御子と最後の戦いに挑んだのでした。彼が成功すれば、悪が支配したでしょうが、彼が失敗したため、彼は天から稲妻のように落ちました¹³²。聖霊が下り、私たちにイエス・キリストの十字架を見せてくださり、すでに過去・現在・将来の罪すべてを裁いています。

主の驚くべき犠牲が、聖霊の新しき時代を開きました。この神の霊は私たちを離れることなく、私たちの人生のあらゆる窮地に私たちを主へと導いてくれます。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、聖霊の働きに関するイエス・キリストの十字架を説明しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

主は御父のもとへ去られましたが、私たちに聖霊を送ってください、いまだに私たちの生活に介入して下さって、私たちを導いてくださっています。聖霊は私たちの罪をはっきりと明らかにし、私たちを救った主を知るように導き、私たちの罪を裁きます。聖霊の働きすべては神様の祝福であり、主が十字架で死なれたからこそ私たちのもとへ来られたことを覚えるようにさせてください。今日、目に見えない聖霊の手にしたがって生きる私たちとなるように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹²⁴ Barclay, *The Gospel of John*, 224.

¹²⁵ Ibid.

¹²⁶ F. B. Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost: A Commentary on the Gospel of John*, 2nd Impression (Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1952), 281.

¹²⁷ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost: A Commentary on the Gospel of John*, 281.

¹²⁸ Ibid.

¹²⁹ Ibid., 283.

¹³⁰ Ibid.

¹³¹ Ibid., 284.

¹³² Ibid.

真理の霊がくるとき

ヨハネの福音書 16:12-15

12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。
13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。
14 御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。
15 父が持っておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。

聖霊は、真理の霊です(ヨハネ 14:17)。御霊は信じる者たちを神の真理へと導きます。御霊の素晴らしい働きとは、神の真理を人にもたらすことです。神の真理を人にもたらすことを、私たちは特別に「啓示」と呼びます¹³³。

御霊は私たちのもとへ下り、啓示を与えてくれます。啓示は現在進行しているプロセスです¹³⁴。主にはまだ語っておられないことが多くありますが、聞く者がそれに耐えられないとき、主は言うべきことをすべておっしゃれません。私たちの霊的な容量に応じて、主は加減なさるのです¹³⁵。聞く者が耐えられ、理解できる範囲内でのみ、真理が明らかにされるのです。

キリストはもっと語れたのですが、彼はそう出来ませんでした。信じる者たちは気をつけなければなりません。なぜなら、キリスト教・教会の歴史において、新しい啓示を受けたと言いながら人々を間違った方向へと導く人が、いつの時代にも見られるからです。聖書に書かれている最も確実な啓示である真理を固くつかみ続けることが大事です。キリスト教の教えは、神がキリストとキリストの使徒を通して授けた教えです。それに同意しない物はいずれも、本物のキリスト教の教えとは言えません¹³⁶。御霊が明らかにする真理とは、「イエスにある真理(エペソ 4:21)」に何も付け加えず、むしろその真理をより明らかにするものです¹³⁷。

啓示は、イエス様に属しているものの大切さを明らかにします。啓示は、イエス・キリストの意味と重要性から開かれ続けるものです¹³⁸。言い換えれば、啓示とは、イエス・キリストを私たちに明らかにする唯一のものです。

啓示は生きている人から私たちにもたらされます。私たちがイエス様により近づいて生きれば生きるほど、イエス様をより良く知るようになります。彼のようになればなるほど、彼はますます私たちに語ってくださいます¹³⁹。御霊の導きに従うほどに、私たちは真理をより知るようになります¹⁴⁰。普通、人は真理に従う前に、真理を知ろうとします。しかし御霊は、知る前から従うべきだと要求しています¹⁴¹。キリストへの従順とキリストの知識は、密接に関連しています。神様はただ神の人だけに、その真理を明らかに出来るのです¹⁴²。

真理は人の発見ではありません。神様の贈り物です¹⁴³。私たちに真理を明らかにしてくれる聖霊は、イエス様が私たちのために血の代価を払った後に贈られたギフトです。御霊は、当分のイエス様の弟子たちと同じ状況にある今日の多くの弟子たちに、勇気と慰めをもたらします。

私たちが忍耐強くなり、天国を学校に例えるなら、聖霊が教師でイエス様が教科書です。その天国の学校で積極的な生徒となり、欠かす事のできないキリストの知識に従順となりますように願います。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「これから来ることを乗り越えるため、クリスチャンとして最高の準備とは、将来の正確な予知ではなく、自分にとってのイエスの意味を深く理解することだ。¹⁴⁴」
3. 新約聖書には、今日の箇所ほど啓示の本質を描いている箇所はありません¹⁴⁵。今日の学びから、啓示の本質について説明しましょう。
4. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

聖霊は自ら語りませんが、非常にはっきりと私たちにキリストの心理を明らかにしてくれます。この真理は、従順する者にのみ明らかにされることを知りました。キリストの言葉に従い、御霊の導きに従いながら生きる私たちとなるように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹³³ Barclay, *The Gospel of John*, 226.

¹³⁴ *ibid.*

¹³⁵ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost: A Commentary on the Gospel of John*, 287.

¹³⁶ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 546.

¹³⁷ F. F. Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes* (Grand Rapids: William B.

Eerdmans Publishing Company, 1983), 320.

¹³⁸ Barclay, *The Gospel of John*, 229.

¹³⁹ Barclay, *The Gospel of John*, 229.

¹⁴⁰ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 546.

¹⁴¹ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost: A Commentary on the Gospel of John*, 288.

¹⁴² Barclay, *The Gospel of John*, 229.

¹⁴³ *Ibid.*

¹⁴⁴ Raymond E. Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI* (New York: Doubleday& Company, Inc., 1970), 716.

¹⁴⁵ Barclay, *The Gospel of John*, 226.

あなたがたの悲しみが、喜びに変わる

ヨハネの福音書 16:16－24

16 しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなります。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」
17 そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と主が言われるのは、どういうことなのだろう。」
18 そこで、彼らは「しばらくすると、と主が言われるのは何のことだろうか。私たちには主の言われることがわからない」と言った。
19 イエスは、彼らが質問したがっていることを知って、彼らに言われた。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』とあなたがたが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。
20 まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。
21 女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。
22 あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。
23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。
24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。

弟子たちはしばらくの間、主を見られなくなりますが、少し経った後で、再び主を見るようになります。しかし弟子たちは、主のこの謎めいた言葉を理解できませんでした。主は彼らがそれについて聞きたがっていることに気づき、説明されました。

妊娠した女性は、出産のときが来ると心配し、一時の産みの苦しみを体験します。しかし、赤ちゃんを産むと、その苦痛を忘れ、喜びに満たされます。新しい命がこの世に生まれるという喜びは、その苦痛とは比べ物にならないからです。産みの苦しみは苦痛に終わらず、新たな命の喜びを生み出します。これこそ十字架を背負う人生です。十字架の人生とは、犠牲する人生です。しかし、その人生は苦痛に終わらず、復活が約束されています。だからこそ、イエス様は弟子たちの悲しみが喜びに変わるとおっしゃいました。弟子たちが忍耐しながら味わった喜び(20－22)は、イエス様が亡くなったとき、この世界を覆った極めて重要な喜びを形成します。弟子たちの喜びはまた、主の死に関連していますが、苦難から勝利を生む喜びです¹⁴⁶。

十字架の終わりは死ではなく、復活です。そのため、主は死の瞬間に喜びを歌いました。まことのクリスチャンの苦難、主に従うときに十字架を背負うことは、確かに復活の喜びへと変わるのです。

まもなくイエス様は十字架で死なれ、その少し後に、弟子たちは聖霊の導きによってイエス様を見るようになります。イエス様を「見ること」とは、クリスチャンのなかにイエス様がおられることを経験し続けることだと解釈できますし、御霊の存在だと解釈できます¹⁴⁷。

御霊は、死だけを見て暗闇のなかに絶望していた弟子たちに下り、栄光の復活主を見せてくださいました。この新たな視点のはじまりは、復活でした。その新たな視点は突然、ペンテコステで大きな広がりを見せました。私たちが彼を「顔と顔を合わせて(I コリント 13:12)」見るとき、その最後の顕現が、歓喜を待っています。今日、私たちは信仰の目で彼を見ます¹⁴⁸。主は信仰のない世界には見えませんが、目が開かれている者たちには見えるのです。

そのため、十字架を背負いながら主に従う者の苦難は、悲しみに終わることはありません。御霊が信仰の目を開かせてくださり、復活の主を見せてくださり、彼らを喜びで満たしてくださいます。苦難を通して獲得した信仰者

の喜びを誰も奪い取ることはないと言はれおっしゃいました。この喜びは、私たちの魂が永遠に喜ぶという主の祝福です。

十字架のゆえに心配や苦しみがありますか？ 主はこうおっしゃっています。「求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「(聖霊のうちにあるイエス様のご臨在を通じた)喜びと(聖霊によって与えられた)知識という2つの恵みは完全に区別することはできません。なぜなら、クリスチャンがイエス様のことを知るようになるという事実から喜びが来ているからです。¹⁴⁹」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

一時の産みの苦しみを経てのみ、新たな命の誕生があります。十字架の苦難を体験してはじめて、私たちは復活の栄光を味わえます。暗闇は暗闇ではなく、信仰を持つ者としての変化に過ぎないのです。どうか私たちが暗闇に絶望せず、まもなく主を見るようになるという告白とともに生きられますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁴⁶ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 731.

¹⁴⁷ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 730.

¹⁴⁸ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 309.

¹⁴⁹ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 733.

その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです

ヨハネの福音書 16:25－27

25 これらのことを、わたしはあなたがたにたとえで話しました。もはやたとえでは話さないで、父についてははっきりと告げる時が来ます。
26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。
27 それはあなたがたがわたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じたので、父ご自身があなたがたを愛しておられるからです。

イエス様はたとえ(paromia)で語っておられました。それは無頓着な聞き手には真理がベールに覆われているような話し方です¹⁵⁰。しかしイエス様は、時が来れば、もはやたとえでは語らず、御父についてははっきりとお話になると宣言されました。

イエス様の受難後、聖霊の新しい時代が開かれました。イエス様はこの世での働きを貫徹され、彼をこの地に送られた御父のもとに帰っていきます。しかし彼は、いま別れを告げている者たちにとって、御父を表す者のままでした。ただ異なるのは、いまや御霊を通して彼は明らかにします¹⁵¹。言い換えれば、イエス様は御父のもとに帰りますが、聖霊を送り、真理を明らかにします。

イエス様を取り去りがついていたベールとは、神様の愛です。もし主が私たちのもとへ来ず、ご自身を明らかにしなければ、私たちはこの愛を知ることとは決してありません。主はこの愛を全生涯で表され、十字架の上でこの愛は最もはっきりと明らかにされました。しかし彼が死から復活された後はじめて、弟子たちはイエス様の苦難と十字架の死の意味を理解したのでした¹⁵²。

イエス様はおっしゃいました。「その日には、私の名で願うようになる(ヨハネ 16:26)」彼らがそうするようになるのは、「その日」、つまりイエス様の死と復活の後からです¹⁵³。その日とは、神様の愛がはっきりとこの世に示される日です。神と人とを隔てていた障壁が消える日です。人はイエスを通して神のもとへ行くことができます。この日は本当に感動的な日です。

その日には、イエス様ではなく、弟子たちが直接イエス様の御名で求めるようになる、とイエス様はおっしゃいました。この言葉の本当の意味とは、とりなしをしなくなるのではなく、イエス様が御父と子どもたちの間で第三者としてとりなしはしないという説明かもしれません。むしろ、人を御父のもとへ、御父を人のもとへ連れて行くというイエス様の大切な役割(14:6－11)が、イエス様の中にあり、イエス様を通した愛の関係をとても親しいものとしてくれるのです。それはイエス様をただの仲介者とみなすことはできません。御父は、イエス様を愛した愛と同じ愛で、弟子たちを愛されます(17:23－26)。そして御父、イエス様、弟子たちが一つとなるのです(17:23－26)¹⁵⁴。すべてのものの本質は、愛です。愛によって一致した関係の中で、イエス様を通して、私たちは神様のもとへと行くことができます。

イエス様は答えられました「私が道であり、真理であり、命です。私を通してでなければ、誰も御父のもとへ行くことはできません。(ヨハネ 14:6)」イエス様が、神様へ至る唯一の道です。祈るとき、イエス様のお名前で祈らねばなりません。この名前が他の何かに置き換えられれば、私たちの祈りは神様に受け入れられません。

イエス様のお名前を求めることは、私たちがイエス様を愛することと、イエス様が神様から来たことを信じると認めることです(ヨハネ 16:27)。愛と

信仰は共にあります¹⁵⁵。神様は、信仰から独立した愛や、愛から離れた信仰は受け入れる事を望まれません。イエス様の中にある愛と信仰を持って私たちが神様のもとへ行くとき、神様は愛で私たちを受け入れてくださいます。私たちが信頼する神様は、私たちを深く愛してくださる父です。子どもたちの些細な祈りをも聞いてくださる耳を持っている、愛の父です。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「それは人が神へのアクセスを得て、その結果として神が受け入れられるやり方で答えるというような愛の交換ではありません。神とイエスは私たちの関係性において最も働かれる方であり、人はそのような神の働きに答えるのです。¹⁵⁶」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように私の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

私たちは愛の目的を御子を私たちのために死ぬために送られた神様の中でのみあると知っています(I ヨハネ 4:10)¹⁵⁷。主よ、私たちのうちに働くあなたの聖霊に感謝します。主の十字架を見上げるとき、聖霊は十字架が私たちのための愛だと明かしてくれます。イエス様を愛し、神様から来られたイエス様を信じながら、イエス様のお名前ですすように願います。私たちが愛と信仰の犠牲を捧げられますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁵⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 234.

¹⁵¹ Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes*, 324-325.

¹⁵² Marrow, *The Gospel of John*, 299.

¹⁵³ Ibid., 300.

¹⁵⁴ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 735.

¹⁵⁵ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 559.

¹⁵⁶ Gerald L. Borchert, *The New American Commentary: John 12-21*, vol. 25B (Nashville:Broadman & Holman Publishers, 2002), 178.

¹⁵⁷ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 560.

私は世に勝利している

ヨハネの福音書 16:28－33

28 わたしは父から出て、世にきました。もう一度、わたしは世を去って父のみもとに行きます。」
29 弟子たちは言った。「ああ、今あなたははっきりとお話しになって、何一つたえ話はなさいません。
30 いま私たちは、あなたがいったいのことをご存じで、だれもあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これで、私たちはあなたが神から来られたことを信じます。」
31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。
32 見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとり残す時が来ます。いや、すでに来ています。しかし、わたしはひとりではありません。父がわたしといっしょにおられるからです。
33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

イエス様は御父からの使命を受けて、この世界に派遣されました。いま、彼はこの世を去り、御父のもとへ帰ろうとしています。主の起源は御父から始まり、彼の終わりもまた御父によって終わります。主のはじまりと終わりは、神様から来ています。

「いま私たちは、あなたがいったいのことをご存じで、だれもあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これで、私たちはあなたが神から来られたことを信じます。(ヨハネ 16:30)」弟子たちはついにイエス様が神様から遣わされたことに納得しました。しかしイエス様は現実主義者です¹⁵⁸。この弟子たちの告白は美しい信仰の告白ですが、イエス様は人の弱さをご存知でした。その告白は同時に非常にしろいものだと、イエス様は知っていました。彼らの前に横たわる試練のとき、その試練が彼らの不足をいくらかを明らかにするでしょう¹⁵⁹。イエス様は、彼の友人たちが彼を否認することを知っていましたが、そのときに彼らを叱責せず、後にも引きずりませんでした。彼は、弱さも含めて人のすべてを愛しておられました。彼は人を見て、ありのままの彼らを愛しておられました¹⁶⁰。

イエス様は弟子たちと共にいましたが、彼は孤独でした。彼が話しているとき、ユダは暗闇の中へイエス様を裏切りに去っていきました。その後まもなく、一番目の弟子であるペトロもまた、主を3度否認しました。主が捕まったとき、誰もが自分の命を気につけ、主の下を去って逃げました(マルコ 14:50)。そのときイエス様は弟子たちと共にいましたが、彼は一人残され、見捨てられました。

しかし主は決して一人ではありませんでした。「父は私と共にある。」彼は「父はこれから私と共にいらっしゃることになるでしょう」とは言わず、「(いま)私と共にいらっしゃいます」と言いました。御父はどんな苦難のときでも御子を去ることはなく、共にいらっしゃいます。彼は最も素晴らしい現実について語っています。どんなに人々が悪いとしても、彼らは神様の御子をその御父との交わりから切り離すことは出来ないということです¹⁶¹。

「しかし、わたしはひとりではありません。父がわたしといっしょにおられるからです。」(ヨハネ 16:32)

私たちが苦難のただ中にあり、頼るものが何もないとしても、イエス様のこの言葉を思い出せば、私たちも無限の安らぎと平安を得ることができます。

イエス様に従う者も、彼の敵も、皆が見ることになる十字架に直面しようというとき、イエス様は栄光を叫ばれました。「私はすでに世に勝っている」とは願いや希望ではなく、事実を表現したものです。そして、その事実はずでに完成されたものと見なされています¹⁶²。主は絶望せず、完全に見捨てられ、孤独な場所で、完璧な愛の勝利を完成されました。私たちもまた、この勝利のキリストに似るべきです。私たちの前にある十字架を喜んで担ぎ、憎しみに打たれることなく愛の勝利者となるべきです。

＊質問＊

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「第一に、一時間ほど彼は一人だったが、孤独ではなかった。
第二に、彼らは艱難にあったが、平安のなかにいた。
第三に、彼は死の道を行かれたが、たしかに勝利者であり、彼を十字架につけた王がいるこの世界にすでに勝利された。¹⁶³」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？

＊祈り＊

「私はすでに世に勝っている。」イエス様が十字架につけられる直前に語った最後の言葉を覚えることを願います。誰もが恐怖に陥り、絶望し、主を見捨て、誰もがこれは失敗だと考えたけれども、主の十字架は決して絶望ではなく、失敗ではありませんでした。十字架は、愛と信仰ですべての絶望と不信に打ち勝たれた御父と御子の完璧な勝利でした。私たちもまたあなたの道についていけますよう願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



The Farewell Prayer
by Ginturn H. Tran

¹⁵⁸ Barclay, *The Gospel of John*, 236.

¹⁵⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 561.

¹⁶⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 237.

¹⁶¹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 562.

¹⁶² Ibid., 563-564.

¹⁶³ Mey

r, The Life and Light of Men and Love to the Uttermost: A Commentary on the Gospel of John, 290.

あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください

ヨハネの福音書 17:1-2

1 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。
2 それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。

言えば、彼は戻ることができ、エルサレムに行く必要は決してありませんで

今日の聖句のすぐ前で、イエス様は別れの説教(告別説教)を完成され、「私はすでに世に勝っている」と勝利を宣言されました。そして今、彼は祈りを捧げます。17 章すべてが別れの祈りです。聖書に記録されているイエス様の祈りの中で最も長い祈りです。イエス様の最後の教え、まるで宝石のような教えが、この別れの祈りに埋め込まれています。イスラエルの地上の聖所と比較してみると、最も聖なるものがこの 17 章です¹⁶⁴。

この最後の祈りは厳粛なものです。しかし、勝利の空気がそこにあるという事実を見落としてはなりません。イエス様はご自分の前に十字架が迫っていることを知っていました。まもなく彼は自分の命を犠牲にします。しかし、彼は自分の死を悲劇とは見ていませんでした。彼は死を超えたところに確かにある勝利を見ていました¹⁶⁵。その結果、主は最も残忍で恐ろしい死を目の前にして、神様にこの祈りを捧げることが出来ました。

なぜならイエス様の人生はクライマックスを迎えており、そのクライマックスは十字架でした。イエス様にとって、十字架は人生の栄光であり、永遠の栄光に至る道でした¹⁶⁶。

イエス様にとって、ご自分の命は神から来て、神に帰るものでした。イエス様の生涯は、神様がこの世をこよなく愛され、その愛をこの世に示すために、唯一の御子を送られたため始まりました。イエス様の使命とは、この愛を生涯で説くことでした。十字架は障害物ではなく、この使命を果たすための道でした。そのため、十字架はまさに栄光なのです。

イエス様の生涯は、この世界が認識する「名誉ある」ものではありませんでした。しかし神様の目には、イエス様の人生は名誉あるキリストのものであり、最上の場所に掲げられるべきものであり、天上でも地上でも地の下でも、彼の名の前にすべてのひざかがむべきであり、彼の人生は御父を賛美するものでした。(ピリピ 2:9-11)

十字架は、本当の意味での名誉・栄光を見られる場です¹⁶⁷。真の栄光とは、自らを低め、仕えた後にのみ仕えられ、自らを無にしてから満たされることを通してのみ高く掲げられるものです。キリストの全生涯は、謙遜な仕えの道でした。そして十字架は、最も低い場での仕えであり、そのために最も輝かしい栄光の表れなのです¹⁶⁸。

イエス様は自らの王位を栄光の中に残しました。彼は身分の低い者や謙遜な者たちに仕え、苦しみと恥の中で死にましたが、私たちが見ることのできるそのすべてが不名誉なものではなく、屈辱ではありませんでした。もし私たちに見る目があるならば、それは真の栄光、真の名誉なのです¹⁶⁹。

十字架は御子の栄光のみならず、御父にも栄光を帰すものです。神様に栄光を帰す道はただひとつ、それは神様に従うことです¹⁷⁰。福音書は、イエス様が十字架を逃れることも出来たと明確に述べています。人間的に

した¹⁷¹。しかし彼は自らを低め、十字架の死にまで従いました。(ピリピ 2:8)。

「神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。(ヨハネ 13:32)」イエス様はこのように言った後、天を見上げ、次のように祈りました。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。(ヨハネ 17:1)」御子の勝利は御父の勝利であり、御子の栄光は御父の栄光です。イエス様が栄光を受けられたように、神様の栄光を受けられました。私たちもまた勝利を得、神様に栄光を帰すことを願います。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. ヨハネ 17:1 はイエス様の自我として要約できるかもしれません。今日のメッセージに基づき、イエス様の自我を説明し、神様の前で自らの自我について考えてみましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか。

* 祈り *

主は、十字架が御子の栄光であり、神様に栄光を帰す道だと祈りました。主はまた、御子の栄光が御父の栄光と寸分たがわず、御父に真に栄光を帰す人生を歩んだとおっしゃいました。この種の最後の祈り、別れの祈りは、本当に深く尊いものです。私たちがこの主の祈りをより深く理解し、私たちの心に主の最後の言葉、最後のご意志を深く刻むことが出来ますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁶⁴ Arno C. Gaebelein, *The Gospel of John*A Complete Analytical Exposition (NeptuneLoizeaux Brothers, 1965), 244.

¹⁶⁵ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 566.

¹⁶⁶ Barclay, *The Gospel of John*, 239.

¹⁶⁷ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 568.

¹⁶⁸ Ibid.

¹⁶⁹ Ibid., 572.

¹⁷⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 241.

¹⁷¹ Ibid., 242.

永遠のいのち

ヨハネの福音書 17:3-5

3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

4 あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。

5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。

死の場所へと行く前に、イエス様は永遠の命について語られます。永遠の命は、この福音書において最も重要なトピックです¹⁷²。今日は永遠の命について、深く考えてみましょう。

ギリシャ語で「永遠の」という言葉は*aiōnios*です。この言葉には、何かに取り掛かるという意味がありますが、人生の長さにはさほど関わりがありません。なぜなら、人生の長さは恵みには必要な条件ではないからです。この言葉のおもな意味は、人生の価値です。この言葉*aiōnios*が正しく適応できる方はただ一人、神様です。永遠の命はこのため、ただ神様の命のことです。永遠の命を得ることとは、永遠の人生に入ることとは、今すぐにでも神様の人生の特徴である素晴らしさ、尊厳、喜び、平安、そして神聖さを経験することです¹⁷³。

イエス様はとても鮮やかに永遠の命の定義を与えてくれています。「永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。(ヨハネ 17:3)」永遠の命とは、唯一まことの神と、神から遣わされたイエス・キリストを知ることです。すなわち御父は遣わした方、御子は遣わされた方です。神様およびイエス様についての知識そのものが、永遠のいのちです¹⁷⁴。以前の学びから、私たちは神様を知ることがイエス様を知ることと寸分たがわないことを知っています。神様についての知識とは、理性的な知識ではなく、神様との個人的な関係を結ぶことです。神様についての知識とは、私たちの人生において、神様の特徴を経験することから得られます。

神様を知るとは、神様を本当に知るとは、転換を経験することです。神様を知るようになると、決して過去の罪深い私たちのままではられません。神様を知るとは人生なのです¹⁷⁵。

イエス様はこの世界に来て、死の只中いる私たちに永遠の命を与えることを通して、神様を知らせてくださいました。それは御父から御子に託された任務であり、イエス様の人生と十字架を通して完成されました。

「わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。(イザヤ 11:9)」

主を知る知識が全世界に満たされる美しい日——それは神様の長きに渡る夢であり、この夢を成就するためにイエス様は私たちのところへ来られました。

＊質問＊

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明してみましょう。
「イエス様は御父とご自身について知ることが永遠の命だと言います。彼らを知ることが命をもたらすとは言わず、彼らを知ることが命であると言います。」
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適応できるでしょうか？

＊祈り＊

イエス様の夢は神様の夢です。神様の夢は、この世が主を知る知識で満たされ、害を加えられたり、損なわれたりしないこと、誰もが永遠の命を得られる世界です。私たちが神様とイエス様を知り、死の影から抜け出して永遠の命の光の中へと入っていただけますように願います。イエス様の御名によって祈ります。

¹⁷² Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 569.

¹⁷³ Barclay, *The Gospel of John*, 243.

¹⁷⁴ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 571.

¹⁷⁵ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 571.

わたしは彼らによって栄光を受けました

ヨハネの福音書 17:6-13

6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。

7 いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。

8 それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。

10 わたしのものはみなあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。

12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。

13 わたしは今もとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。

イエス様の人生は、御父の名前をこの世に明らかにする人生でした。これは単純に名前を呼ばれるという意味ではありません。その方の本質を知らしめることを意味します¹⁷⁶。イエス様は「私を見たものは、父をも見たのです(ヨハネ 14:9)」と宣言するような人生を生きました。そのため、神様の本質がイエス様の人生を通してはっきり示されたのです。

イエス様は神様の名前を私たちに明らかにされました。これは、どんなに小さな信仰者さえも、恐れ多くて呼ぶことのかなわなかった神様の名前を呼ぶことが出来るという素晴らしい恵みです。

さらに、イエス様はとても驚くべき祈りを捧げます。「わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。(ヨハネ 17:10)」イエス様は、神様の持ち物を自分の物だと宣言しています。この理解を助けるために、ルカの福音書のたとえから、父親が息子に語った哀れみ深い言葉を聞いてみましょう。「父は彼に言った。『おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おまえのものだ。』(ルカ 15:31)」御父の持ち物すべてが御子のものです。御父と御子は分けられません。なぜなら、御父と御子は分かつことのできない完全一致の関係だからです。主が私たちに開きたいと願った世界は、イエス様が神様と一致したように、私たちが神様と一致する世界です。

イエス様のこの世での宣教の始まりは、あまりにみすばらしいものでした。いま、主はその宣教を完了しようとしています。そばにはたった11人の教養のないガリラヤ人の弟子たちだけがいます。しかし主は、小さな始まりを恐れませんでした。主は未来について悲観しませんでした。むしろ主は、こう仰っているようでした。「私は11人の実に普通の男たちだけを獲得しました。しかし11人の普通の男たちを私にください。そうすれば私は世界を変えられます。¹⁷⁷」

イエス様は「わたしは彼らによって栄光を受けました(ヨハネ 17:10)」と仰いました。彼らとは、イエス様の教えを深く悟らず、イエス様を裏切り、逃げた弟子たちです。彼らを通して、どんな栄光をイエス様は受けたのでしょうか？ それは、信仰から生じる将来の栄光です。主は完全に神様を信じ、その同じ完全な信仰でもって彼の弟子たちを信じました。私たちがどんなに小さく、恥ずべき存在だとしても、主は今日も、完全な信仰でもって私たちを見守って下さっています。私たちもまた、神様と人間に対するイエス様の確信に満ちた信仰とともに前進しなければなりません。もし人が神様と人とを信じるなら、決して悲観論者になることはありません。

ません。なぜなら、この人生の可能性に対する(神と人への)2つの信仰は永遠だからです¹⁷⁸。

たとえ最も恐ろしい死の影が迫っているとしても、この信仰の中で、主には何の暗闇もありませんでした。むしろ喜びが彼の心に湧き上がっていました。私たちも、主の信仰に似ながら、自らのうちに主の喜びを完全に味わう弟子となるべきです。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. イエス様は、神様への信仰と同じく、弟子たちに完全な信仰を持っていました。弟子たちは、イエス様が十字架の受難を受けようとされるときに理解せず、彼のそばにいて力を与えられませんでした。しかし、復活の後、彼らは完全に変えられ、もはや死を恐れず、イエス様の名を知らしめるために彼らの人生を捧げました。まるでイエス様と弟子たちの例のように、自分の今の姿が小さくみすばらしいとしても、将来美しく、素晴らしく変わると完全に信じてくれた誰かの体験があればシェアしてください。そして、その信仰が自分にどんな意味を成したかを説明しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

主の祈りは私たちの心を深く動かします。主の人生全体は、神様の名前を聖なるものとするものでした。神様との完全一致の中で、主よ、あなたはあなたの人生のみならず、あなたの死においても、神様の御名を賛美しました。あなたは神様への信仰と愛と同じもので、私たちをも信じ、愛してくださいました。主よ、あなたが私たちを信じ、愛するように、私たちもあなたを信じ、愛することができますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁷⁶ Barclay, *The Gospel of John*, 245.

¹⁷⁷ Barclay, *The Gospel of John*, 249.

¹⁷⁸ 30 Ibid.

イエス・キリストの別れの祈り

ヨハネの福音書 17:14-26

14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。
15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。
16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。
17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。
18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。
19 わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。
20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。
21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。
22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。
23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。
24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。
25 正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。
26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからお知らせします。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」

イエス様はこの世に残す主のものたちに、大きく分けて3つの事を求めました。

第1に、彼らを悪い者から守ってくださるよう神様に頼みました(ヨハネ 17:15)。この世の価値観に従わず、キリストの真理に従うため、弟子たちはこの世からの迫害をまぬがれません。この世に属さない者たちにとって、迫害は避けられません。キリスト教は、私たちに簡単な平安は与えません、勝利の戦いを与えます。キリスト教は、問題から逃げ出したり、うまく回避する人生は与えません、問題に直面し、乗り越える人生を与えます¹⁷⁹。だからこそ、イエス様は、弟子たちに将来ふりそそぐこの世の迫害や憎しみをなくしてくださるよう祈ったのではなく、神様に、彼らを悪い者から、敵から守ってくださるよう祈りました。主は、厳しいこの世に残す弟子たちが、どんな難しさや苦難が来るとしても、誘惑に陥らないように祈り、ただ信仰のみで勝利するよう熱心に祈りました。

第2に、イエス様は彼らが真理によって聖別されるよう祈りました(ヨハネ 17:17)。どうしたら聖別されるのでしょうか？ 私たちは真理によって聖別されます。「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。(ヨハネ 17:17)」神様の御言葉による真理——この真理によって私たちはきよめられ(ヨハネ 15:3)、聖なるものとなります。そのため、私たちは昼も夜も神様の御言葉を黙想し、自分の口から神様の言葉が離れない聖なる生活を生きているかどうか常にチェックするのです。

最後に、主は、御父と御子がひとつであるように、弟子たち全員が一つになるように祈ります(ヨハネ 17:21)。どのように神様と人がひとつになれるのでしょうか？ イエス様は御父と彼との間の一致を語り、「彼らもまた私たちの中にあるように」と祈ります。イエス様が求める一致は、人の努力によっては来ず、御父と御子の「中にある」ことで成されます¹⁸⁰。人の努力や決断では、一致の関係の基盤を築く事ができません。どんな状況にあっても永遠に変わらない神様だけが、すべての関係の基盤なのです。そのため、私たちが神様に近く生きるほど、他のクリスチャンと近い関係を結べるのです¹⁸¹。

「その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。(ヨハネ 14:20)」これは一つの美しい一致の世界です。この美しい一致はきっと、神様がイエス様に対して持たれる愛の中に私たちがあるときのみ、開かれるものなのでしょう。「あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいる(ヨハネ 17:26)」神様の愛は、私たちを一つとする唯一の力です。

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「弟子たちは、イエス様が神様から彼らにくれた御言葉を受け入れ、覚えた(ヨハネ 17:6、14)。この御言葉が、彼らを清めた(ヨハネ 15:3)。」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適応できるでしょうか？

* 祈り *

主が最後の祈りを捧げたとき、あなたは弟子たちが豊かで快適な人生を歩まれるようにとは求めませんでした。彼らが悪に陥らず、それを乗り越えるように祈り、悪が彼らに近づいてきたとき守ってくださるようにと御父に求めました。あなたは、彼らが神様の御言葉の真理によって聖なるものとされ、神様の愛の中で一つとなるようにと祈られました。主の弟子たちへの祈り一つ一つに、素晴らしい愛と信仰が埋め込まれています。どうかこの祈りに示されている主の願いを満たす私たちとなるように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁷⁹ Barclay, *The Gospel of John*, 252.

¹⁸⁰ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 594.

¹⁸¹ Ibid.

ともし火と松明と武器をもって

ヨハネの福音書 18:1-3

- 1 イエスはこれらのことを話し終えられると、弟子たちとともに、ケデロンの川筋の向こう側に出て行かれた。そこに園があって、イエスは弟子たちといっしょに、そこに入られた。
- 2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたからである。
- 3 そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。

ヨハネ 13 章から 16 章は最後の晩餐と告別説教を記録し、17 章は別れの祈りを記録しています。遺言のような尊い言葉を終えたいま、イエス様は弟子たちとともにケデロンの谷を越えてオリーブ林に入っていきます。

過ぎ越しの祭りのとき、ユダヤ人たちは穢れのない羊の血をまくという儀式を行いました。そのような羊の血が祭壇にふりかけられるとき、祭壇からはケデロンの谷へと続く路があり、過ぎ越しの羊の血がその路を流れていきました。イエス様がケデロンの谷を渡るとき、どんな考えが頭をよぎったのでしょうか？ ユダヤ人の出エジプトの歴史を思い起こしたかもしれません。ユダヤ人たちは羊の犠牲によって死の影から救い出されました。そしてイエス様がそれを思い起こしたならなおさら、イエス様ご自身の犠牲の思いが彼の中で鮮やかとなったことでしょう¹⁸²。

ケデロンを渡って、一行はオリーブ山(オリベツト)へ来ました。その南側の斜面には、オリーブの木でいっぱいの小さな園がありました。その園はゲッセマネと呼ばれ、搾油場、丘で育ったオリーブの実から油を抽出する場所でした。イエス様と弟子たちは、平安と静けさを求めてこの園によく来ていました¹⁸³。この場所がイエス様にとって聖週間の間、毎夜訪れる場所であることは疑いようがありませんでした(ルカ 21:37)。しかしヨハネはおそらく、この場所がイエス様とその弟子たちにとって、エルサレムを早めに訪れるときの集合場所として使われたことを表現していると思われます¹⁸⁴。ここは休息の場であり、イエス様が最も愛された場所でした。とても悲劇的なことに、まさにこの場所で、イエス様は捕らわれるのでした。

ユダはそれを知っていました。ユダはその場所でイエス様を見つけられるだろうことを知っており、まさにこの場所で、ユダはイエス様を捕まえる事を企てるには最適だろうと考えたのでした¹⁸⁵。最後の晩餐の席で、イエス様がユダを勝ち取ろうと愛の最後の招きをしましたが、イエス様からパン一切れを受け取ったユダは、サタンの道具となり、闇夜に消えていきました。ユダは裏切り者になり、その木立の中でイエス様を捕らえるべく当事者たちを導きました。これこそイエス様が(ヨハネ 11:10)や(12:35)で警告していた不吉な夜のことでした。その夜には、光がないため、人々はよろめいてしまいます。

もしかしたら、ユダや彼と共に来た人々がともし火とたいまつを持ってきた訳はこれかもしれません。彼らは世の光を受け入れなかったため、人工的な光を持たねばならなかったのです¹⁸⁶。

過ぎ越しの満月がまるで昼間のように辺りを照らしていたにもかかわらず、彼らはともし火とたいまつを持って、武装して、イエス様を捕らえにやってきました。ユダが歩兵隊と祭司長の代表者ら、パリサイ人の中でも主だった人々を引き連れてイエス様のもとへ来たという事実に着目する必要があります。イエス様が深く愛し、信頼した 12 弟子の一人であるユダが、人々の代表者たちの前で導いています。彼らこそ、キリストを受け入

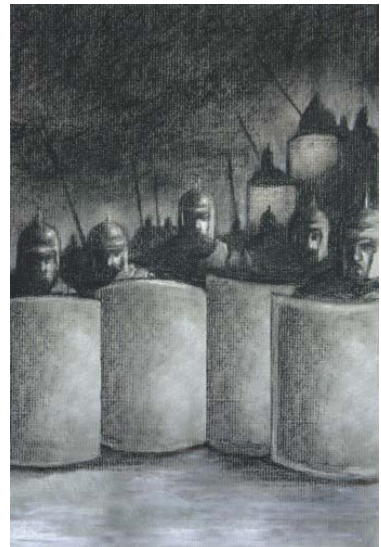
れ、証しすべき者たちでしたが、彼らが行ったのは、この最悪の夜に、ともし火とたいまつと武器を持って神様の御子を捕らえることでした。これは歴史の悲劇ではないでしょうか？

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日の箇所は、歴史的に見ても悲惨なシーンを記録しています。今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。「この暗黒のときは、天国のエルサレムにおけるイエス様の最終的な勝利(黙示録 22:5)と比較されるだろう。主なる神が光となられるので、祝福された者たちには灯りが必要ない場所である。」
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

別れの説教と祈りを終えられ、今、イエス様は過ぎ越しの羊の血で満たされたケデロンの谷を越えてオリーブの園へいかれました。この世の罪を背負う神の小羊は、ご自身をこの世に捧げるときが来たことを知りました。イエス様との愛の思い出がいっぱいのこの園へ、裏切り者となったユダは、ともし火とたいまつと武器を持って、イエス様を守るべきだった人々の一団を導いて来ました。イエス様の弟子たちは命を求めて彼に従ってきましたが、ユダの一団はイエス様の死を求めてやってきました¹⁸⁷。私たちがユダの一団のように死の闇にとらわれず、真理の光であり命であるイエス様を受け入れる者となりますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



With Lanterns and Torches and Weapons
ともし火と松明と武器を持って
by Ginturn H. Tran

¹⁸² Barclay, *The Gospel of John*, 259.

¹⁸³ Ibid., 260.

¹⁸⁴ Bruce, *The Gospel of John Introduction, Exposition and Notes*, 339.

¹⁸⁵ Barclay, *The Gospel of John*, 260.

¹⁸⁶ Brown, *The Anchor Bible The Gospel According to John XIII-XXI*, 817.

¹⁸⁷ Brown, *The Anchor Bible The Gospel According to John XIII-XXI*, 818.



The Kidron Valley
by Joungmi Kang



Jesus crosses the Kidron Valley
by Koeun Lee

この人たちはこのままで去らせなさい

ヨハネの福音書 18:4-11

4 イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出て来て、「だれを捜すのか」と彼らに言われた。
5 彼らは、「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らといっしょに立っていた。
6 イエスが彼らに、「それはわたしです」と言われたとき、彼らはあとずさりし、そして地に倒れた。
7 そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。
8 イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」
9 それは、「あなたがわたしに下された者のうち、ただのひとりをも失いませんでした」とイエスが言われたことはが実現するためであった。
10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。
11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下された杯を、どうして飲まずにいられよう。」

を担われました。主は、私たちの代わりに苦難に遭われ、私たちの苦しみに

これまで学んだように、ユダはイエス様を捕らえに一人で来たのではなく、歩兵隊をつれてきました。ヨハネの言うこの「歩兵隊」とは、ローマ軍の軍隊用語を指します。厳密に言えば、歩兵隊は軍団の10番目の部隊で、600人から成り立っています¹⁸⁸。明らかに大勢の人々が、イエス様を捕らえるために、ともし火とたいまつと武器を携えて押し寄せました。対するイエス様は、生涯で一度も暴力的な方式を採らなかった平和の王でした。

兵士たちは、イエス様が隠れていると確信していたため、武力でもって彼を捕らえようと準備してきました。しかし、彼らの予測におおいに反して、イエス様は月明かりのもとに姿を現し、自ら彼らに歩み寄って「誰を捜すのですか？」と尋ねられました。「それは私です。私があなたたちの捜しているものです。」すると、彼らはあとずさりし、そして地に倒れました。地に倒れるとは、ダニエル 2:46、8:18、黙示録 1:17にあるような神様のお告げへの反応です¹⁸⁹。素晴らしいお告げとイエス様からほとばしる霊的権勢が、彼を捕らえに来た人々をあとずさりさせ、地に倒れさせたのです。捕らえられようとする者が、捕らえるために来た者たちをひざまずかせました。

ヨハネは、これから怒ることをすべて理解しておられるイエス様が一人の前に出てきたと記録しています。ヨハネは、ユダが裏切り、大人数の武装した者たちがともし火とたいまつで辺りを照らしながら探し回ったために、イエス様が十字架へ導かれたのではなく、**イエス様ご自身の意志**で十字架に自らを捧げられたと証したかったのです。他の誰でもなくイエス様が、ご自身の運命の主人でした。主は、自分にこれから起こる事を全て知っており、もし望むならば、とても簡単にその対立を避けられました。それにもかかわらず、主は逃げず、この道を積極的に選び、勇敢に歩まれました。これが十字架の道です。

イエス様はもう一度たずねます。「誰を捜しているのですか？」彼らは「ナザレ人イエスを」と答えます。「もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。私があなた方の探している者だと2度も明らかにしたではないか。私を捕らえなさい。しかし私の弟子は傷つけず、安全に去らせなさい。」主はご自分の危険よりも、弟子たちの危険をより懸念されました¹⁹⁰。カルバリーの十字架よりも偉大な霊的な十字架を背負われたゲッセマネにおいても、主は最後まで弟子たちを守ろうと望まれ、お一人で捕らえられ、お一人で十字架を背負われました。

「もし私を捜しているのなら、この者たちは去らせなさい。」良い羊飼いが前に立って、敵の刀を自らの胸に収め、縮こまっている群れの解放を求めるように、小さなスケールで十字架を一度行い、カルバリーで永遠の十字架を行ったのです¹⁹¹。十字架は、私たちを守るために、主が私たちの代わりに私たちの弱さを担ってくださった道です。主はすべての鋭い矛先

代えて傷を受けられ、私たちの罪のために死なれました¹⁹²。彼は前に立ち、捕らえられ、私たちの代わりに連れて行かれました。まことに主のおかげで、私たちは自由になれたのではないのでしょうか？

今日も、主は私たちを捕らえようと狙っている暗黒の力に語っています。「私を連れて行きなさい。しかし、彼らは去らせなさい。」
「いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ 2:20)」

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基き、次の文章の意味を説明しましょう。
「彼の命と死は、単なる犠牲ではなく、自己犠牲なのです。彼は私たち皆のために、自由意志で自らを捧げました。」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？
-

* 祈り *

ヨハネは、心震える記録を伝えました。主が、ご自分に起こることすべてをご存知だったにもかかわらず、逃げずに、勇敢にも暗黒の力に立ち向かわれたことです。主の愛の聖なる権勢を前にして、捕らえに来た人々は服従するよりほかにありませんでした。闇の勢力すべてが策を練り、主を取り囲んだとしても、主はご自分を顧みず、私たちの事を真っ先に考えられました。主は、私たちを救うために、その対価としてご自分の命を喜んで差し出しました。主イエスは私たちの罪の代価として売られ、私たちは主イエスの犠牲という代価で買い取られました。私たちがこの愛を覚え、それに応えるものとなれますよう願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



The Prowess of Peter

¹⁸⁸ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 604.

¹⁸⁹ Brown, *The Anchor Bible The Gospel According to John XIII-XXI*, 818.

¹⁹⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 262.

¹⁹¹ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost A Commentary on the Gospel of John*, 315.

¹⁹² Ibid.

Day 30 受難の聖節の火曜日

父がわたしにくださった杯を、どうして飲まずにいられよう

ヨハネの福音書 18:10-11

10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。
11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」

多くの人が、ペテロは臆病者だと言います。彼が主を否認し、逃げたからです。しかし、今日の箇所はそうした主張を抑え、かえって彼の勇氣を証します。今日の箇所では、ペテロが全く臆病ではなかったことを示しています。彼には、この世の誰にも見られないような勇氣がありました。たとえ何百人もの兵士が武装して、主を捕らえにやってきたとしても、ペテロは自らの剣を抜いて立ち向かっていきました。もし自分がペトロだったら、数多くの武装した敵に相対するというような勝てそうにない状況のなかで、剣を抜くでしょうか？ ペテロは、十字架につけられる犯罪者の信者として認定されたとき、支払う代価が高いことを確かに知りました。しかしペテロは主を愛する弟子でした。そのため、彼は自らの命を危険にさらしながらも主を守りたいと願いました。これこそペテロの美しい勇敢さです。

主はこのペテロの勇氣をほめませんでした。かえって彼を叱り、剣を鞘に収めなさいと命じます。ペテロのやり方では何も達成できないことを主はご存知であり、もっと言えば、主はすでに御父から与えられた杯を飲む事を決めていたのです。

ヨハネは、共感福音書の著者のように、ゲッセマネの祈りを記録しました。しかし、ある意味で、ヨハネの福音書にある主の逮捕のシーンでは、一般的な「園での苦悶」のモチーフが「父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう(ヨハネ 18:11)」に集約されています¹⁹³。

御父が下さった杯とは、すべての福音書が証していることですが、苦難の杯であり、この世の罪を背負う重みです。それは十字架が主の前に来たとき、鮮やかに示されました。 12 人のうちの 1 人がその夜に出て行き、11 人が残りました。そのうちの 3 人の弟子を主が選び、十字架にかけられる前にゲッセマネで祈りました。「ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。(マルコ 14:33)」まもなく逮捕されようという今、彼は激しく泣き叫びながら祈りました。「キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙ををもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。(ヘブル 5:7)」

兵士の一団が、彼らと同じ生身の人間を捕らえました¹⁹⁴。福音書の著者は、イエス様が私たちのように涙を流し、感情をあらわにした人間であったことを隠しませんでした。イエス様は人間であり、深く恐れ、心配し、泣き叫んだのですが、そこで終わりませんでした。主は祈り、彼の弱さ、苦しみ、苦痛、悲しみ、涙すべてを乗り越え、神様が下さった杯を飲む準備があると決心を固めました。

十字架は、人類が考案した最も苦しく恐ろしい刑罰の一つです。望んでも、早く死ぬ事は許されません。それは、死に向かってゆっくりと苦しみが増していくという、恐ろしい死です。この刑罰は、ローマ帝国の支配に反旗を翻すような重罪人や奴隷にのみ下されたひどい刑でした。

十字架での死の前に、主は顔を地につけて熱心に祈りました。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。(マタイ 26:39)」「イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。(ルカ 22:44)」しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。(マタイ 26:39)」イエス様が御父に求めれば、すぐにでも 12 軍団よりも多くの御使いが配下に置かれます(マタイ 26:53)。彼はいかなるときでも、ど

んな状況をも越える事ができる神様の御子でした。しかし彼は、御父が下さった杯を飲むと決めました。これは自分を無にする事であり、自らを低める事であり、言い換えるならば**従順**です。それが自らの死を意味するとしても、主は神様の御意思に従うと決めました。

私たちと同じように弱い肉体を持つイエス様は、どのようにこの恐ろしい十字架に耐えたのでしょうか？

確かに、これはただ愛のゆえにです。主の愛は死よりも強く、墓よりも大きなものです¹⁹⁵。主はどんなに良く私たちを愛さねばならなかったでしょう！彼をピラトの審判の前に立たせ続け、兵士のむちに身がかがめさせ続け、明らかに無力な状態で十字架にかかったのは、愛、ただ愛だけでした¹⁹⁶。主は苦しみ、死にましたが、兵士の行いのせいや、彼らを送り込んだ者たちのせいではありません。御父が下さった杯のゆえに、十字架において死なれたのです¹⁹⁷。これはまた、神の目的の強制でさえありませんでした。これは愛の故の彼自身の選択でした。彼が彼自身よりも愛した者たちがあがないを受ける時、その愛が全ての事を明らかにするのです¹⁹⁸。

信仰の旅路において、私たちの意志が神様の御意志と衝突するとき、困惑したり、恐れを抱いたり、苦しみを感ずるとき、イエス様の声を思い出すべきです。「父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」

＊質問＊

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「共観福音書に記録されているゲッセマネの祈り(マタイ 26:36-46、マルコ 14:32-42、ルカ 22:40-46)は人間イエスの苦難をはっきりと記しています。しかしこのような知識が、受難を通して彼が味わった苦痛の現実を弱めるような事があってはなりません。」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？

＊祈り＊

主のために、ペテロは剣を抜き、武装した敵兵に立ち向かいました。このペテロの勇敢さは美しいものですが、最も重要なときに主を否認するという変わりやすい勇敢さでした。イエス様は涙の祈りをささげましたが、結局は死の力を乗り越え、神様の御意志に服従しました。少しも揺れずに、主は神様がくださった杯を喜んで飲みました。主がいかにして十字架を背負うことが出来たかという秘訣を知り、どうか私たちも主に従い、十字架を背負うことができますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁹⁵ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 311.

¹⁹⁶ Ibid.

¹⁹⁷ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 608.

¹⁹⁸ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 311.

¹⁹³ Marrow, *The Gospel of John*, 327.

¹⁹⁴ Marrow, *The Gospel of John*, 325.

アンナスの勝利

ヨハネの福音書 18:12-14、19-24

12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕らえて縛り、
13 まずアンナスのところに連れて行った。彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。
14 カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

19 そこで、大祭司はイエスに、弟子たちのこと、また、教えのことについて尋問した。
20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に向かって公然と話しました。わたしはユダヤ人がみな集まって来る会堂や宮で、いつも教えたのです。隠れて話したことは何もありません。
21 なぜ、あなたはわたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、わたしから聞いた人たちに尋ねなさい。彼らならわたしが話した事がらを知っています。」
22 イエスがこう言われたとき、そばに立っていた役人のひとりが、「大祭司にそのような答え方をするのか」と言って、平手でイエスを打った。
23 イエスは彼に答えられた。「もしわたしの言ったことが悪いなら、その悪い証拠を示しなさい。しかし、もし正しいなら、なぜ、わたしを打つのか。」
24 アンナスはイエスを、縛ったままで大祭司カヤパのところに送った。

その夜、ユダと共に来た一団はイエス様を捕らえて縛り、まずアンナスのところに連れて行きました。アンナスはカヤパの義父で、カヤパがその年の大祭司でした。大祭司の役は本来は終身ポストでしたが、ローマ帝国が支配するようになってからはローマ政府が大祭司を任命するようになりました。アンナスは西暦 6 年に大祭司の職に任命され、西暦 15 年に退位させられています。しかし彼がひっきりなしにお世辞を言ったり賄賂を贈ったりしたため、彼の 5 人の息子や孫 1 人、義理の息子 1 人、カイアフアが次々と彼のポストを引き継ぎました。彼はこのとき、60 歳くらいだったと言われています¹⁹⁹。彼はまだ大祭司の中で最も権力を持つ者でした。彼の家族も皆、彼の性格を帯びており、不屈の陰謀で悪名高い人たちでした。アンナスと息子たちが、滑らかで、辛らつで、蛇のような口のうまさを発揮し犠牲者を掴んだことから、「毒ヘビ」と呼ばれるようになったと言われています²⁰⁰。

アンナスの家族は、最も軽蔑に値するやり方で富を増やしました。神殿に捧げられたいけにえは、しみや傷のないものでなければなりませんでした。神殿にはそれをチェックする検査官がいました。もしいけにえが神殿の外で買われたものであれば、検査されねばならず、必ず不具合が見つけられました。そのため、神殿の店からいけにえを買う必要があり、2 倍の価格を払う必要がありました。神殿でのビジネスは全て完全に搾取でした。また神殿のいけにえを売る店は「アンナスの市場」と呼ばれていました²⁰¹。ユダヤ教の教典「タルムード」にさえ「アンナスの家の災難」と記した箇所があるほどです²⁰²。

イエス様は、アンナスのような毒ヘビにとっては目の上のこぶでした。イエス様はアンナスの既得権益を攻撃した人物でした。イエス様は、いけにえ商売の神殿をきよめた方であり、アンナスの富を脅かした方でした²⁰³。そのため、イエス様はまずアンナスのところへ連れて行かれたのです。

アンナスを前にした尋問は、形式だけの裁判でした。ユダヤ人の法律には、罪人がどんな質問にも「ノー」と言ってはならないという重要な法規があります。そのため、罪人はどんな罪状も受け入れる仕組みとなっていました²⁰⁴。それをよく知っていたイエス様は、彼らにイエス様には尋ねず、イエス様の言葉を聞いたものたちに尋ねるよう要求し、また目撃者を連れてくるよう要求しました。

大祭司の中で最も強い権力を持っていたアンナス、つまり他の誰よりも律法を良く守っているはずのアンナスは、自ら法を破り、目撃者なしの状態でイエス様を尋問しました。アンナスとカヤパには初めから、公正なやり方に則って裁判を進める心積もりがなかったに違いありません。

ヨハネは、これが全くの違法裁判であったと告発しています。裁判をする前から、彼らはイエス様の死の判決を決めていました。「カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。(ヨハネ 18:14)」

まことの大祭司、神と人との架け橋となられた方、人々の命を救い、彼らを悔い改めと救いへと導かれた方は、正しくない姿の大祭司、多くの人々を罪へと陥れた人によって殺されました。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 十字架の出来事から 60~70 年後に福音書を記したにもかかわらず、ヨハネはアンナスとカヤパの名前について触れるとき、非常に激しい憤りを露わにしています。ヨハネはいまだに彼らの考えに嫌悪感を抱いていたに違いありません。ヨハネの時代における大祭司らの誤ったイメージについて考えると、今日の教会と信仰者に迫る警告とは一体なんでしょうか？
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

イエス様が宗教の権力者らのゆえに苦しみを受けられたことを知るようになりました。主が立ち向かわれた権力者たちは、嫌われる存在で、悪の権力者でした。彼らは、人の代表として、神と人にと仕えていると言いました。しかし実際には、彼らは神を欺いていました。主は私たちのもとへ人として来られ、まことの大祭司となりました。永遠の命の道を示し、私たちを神様へと導かれた主の恵みをどうか決して忘れないようにさせてください。このメッセージを全世界に宣言する私たちになるように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

¹⁹⁹ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 344.

²⁰⁰ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 316.

²⁰¹ Barclay, *The Gospel of John*, 264.

²⁰² Ibid., 265.

²⁰³ Ibid.

²⁰⁴ Ibid.

ペテロの否認

ヨハネの福音書 18:15-18、25-27

15 シモン・ペテロともうひとりの弟子は、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いで、イエスといっしょに大祭司の中庭に入った。
16 しかし、ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いである、もうひとりの弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを連れて入った。
17 すると、門番のはしためがペテロに、「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは、「そんな者ではない」と言った。
18 寒かったので、しもべたちや役人たちは、炭火をおこし、そこに立って暖まっていた。ペテロも彼らといっしょに、立って暖まっていた。

25 一方、シモン・ペテロは立って、暖まっていた。すると、人々は彼に言った。「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね。」ペテロは否定して、「そんな者ではない」と言った。
26 大祭司のしもべのひとりで、ペテロに耳を切り落とされた人の親類に当たる者が言った。「私が見なかったとでもいうのですか。あなたは園であの人といっしょにいました。」
27 それで、ペテロはもう一度否定した。するとすぐ鶏が鳴いた。

すべての弟子がイエス様から離れても、ペテロは離れられませんでした。愛する先生がまもなく最期の時を迎えるというとき、ペテロはこの寒い夜に、目を閉じて先生を一人で行かせることは出来ませんでした。一団がイエス様を捕らえていったとき、ペテロは遠くから一団を追いかけ、終いには大祭司の中庭に入りました。イエス様にまつわる美しい愛の記憶が、驚くべき勇気を沸き起こし、彼を死が舞っている恐ろしい場所へと導きました。
しかしペテロはやがて、主を3度否認しました。心から主を愛していたペテロが、なぜ臆病者になり、主を否認するようになったのでしょうか？

彼は自分自身の力を信賴していました。危険が近くにないときには、力強く、大きな声で話すことが出来たため、自らを強い者だと見なしていました²⁰⁵。彼は自分の弱さを知らず、自分の強さのみを頼りにしていました。

神様の恵みの中にいなければ、どんなときでも、私たちの解決策というのは状況や環境によって変わらざるを得ません。私たちは祈ること、謙遜と自分に頼らず自らを低くする事、神様の中で、試みにあう全ての者を待っている恵みにおいて強くなる事を学ばねばなりません。

ペテロは、裁判を受ける主を離れ、焚き火の周りに立ち、奴隷や当局者たちと共に体を温めていました。主の人々にとって、自らを妥協の位置に置くことは常に危険です。この世の火のもとに立ち、手を温めることは常に危険です²⁰⁶。この世の火はペテロに幾ばくかの安らぎを与えるように見えますが、まもなくひどく焼けどをするようになります²⁰⁷。

この寒い夜に、ペテロは主の側にいることに失敗し、彼を守ることに失敗し、彼を力づけることに失敗し、彼を一人にしました。ペテロは火で温まりながら、主を3度否認しました。鶏が鳴いたとき、ペテロは主の言葉を思い出し、外に出て激しく泣きました。「そこでペテロは、『鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。』とイエスの言われたあのことを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。(マタイ 26:75)」

ペテロは同じ夜に彼がひざまずいて行った告白を思い出すべきでした。その出来事のたった数時間前、自分の命を主に捧げると言ったのでした(ヨハネ 13:37)。知らぬままに犯した自らの罪を考えながら、彼は自分の言葉によって裁かれたに違いないでしょう。彼が主を3度否認するから気をつけねばならないと警告した主の言葉を思い出したに違いありません。彼は自分自身を含めた弟子たちのイメージを思い起こしたに違いありません。変わりやすく、主を否認し、主を苦しめ、主と共にいることに失敗し、主を力付けたが、去っていった者たちでした。一方、恐ろしい十字架の前に、ただ愛と信仰をもって変わらぬ姿のままに前進した主のイメージを思い起こしたことでしょう。彼は最初の弟子だったので、より一層愛されました。彼は主が下さったその愛を思い出したに違いありません。そのため、彼は激しく泣くほかありませんでした。

この非常に詳しい記録が、全ての場面をその目で見た目撃者によって書かれたことを思い出しましょう。そのときも、その後も、ペテロの親しい友である人物でした。しかし彼の愛が、兄弟の罪を隠すことはありませんでした。ペテロ自身もそれを望まなかったでしょう。なぜなら罪があふれるところには、恵みがあふれるようになるからです²⁰⁸。

私たちがペテロと何も変わらない不十分なものだとしても、主の恵みはあふれるほどに下り、私たちの罪を洗い、十二分に私たちを覆って下さいます。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、ユダの裏切りとペテロの否認の違いについて説明しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

今日のメッセージを思い出しながら、キリストの愛と、私たちが恵みを忘れる姿、キリストの忠誠と、私たちの気まぐれな献身、御父のご意志のくびきを背負われたキリストの柔和さと、辱めの十字架を背負おうとしない私たちの姿を比較するよう望みます²⁰⁹。そして私たちもまた、ペテロが流したような涙を流しながら自らを省みて、悔い改めることを望みます。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



The Denial of Peter
ペテロの否認
by Ginturn H. Tran

²⁰⁵ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 322.

²⁰⁶ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 346.

²⁰⁷ Ibid., 348.

²⁰⁸ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 320.

²⁰⁹ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 322-323.

イエスのことばが成就するためであった

ヨハネの福音書 18:28-32

28 さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。時は明け方であった。彼らは、過越の食事が食べられなくなることはないように、汚れを受けまいとして、官邸に入らなかった。
29 そこで、ピラトは彼らのところに出て来て言った。「あなたがたは、この人に対して何を告発するのですか。」
30 彼らはピラトに答えた。「もしこの人が悪いことをしていなかったら、私たちはこの人をあなたに引き渡しはしなかったでしょう。」
31 そこでピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に従ってさばきなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれを死刑にすることも許されてはいません。」
32 これは、ご自分がどのような死に方をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就するためであった。

長い裁判のあったその夜、すでに早朝の頃、イエス様はカヤパのもとからローマ総督ピラトの官邸に連れてこられました。総督官邸とは、ローマの総督がエルサレムにいる間、本部として使う場所です。いまは過ぎ越しの祭りの期間だったので、ユダヤ人たちは異邦人の官邸に入りたがりませんでした。儀式上の不浄と見なされ、過ぎ越しの食事をするにふさわしくないとされるのが怖かったからです。

過ぎ越しの祭りは、種無しパンの祝宴です。ユダヤ人家庭はみな、悪の象徴であるイースト(種)をすべて取り除くという儀式を厳しく執り行います。律法を破った罪で神様の御子を裁判にかけた人々は、過ぎ越しの祭りを聖なるものとして守りたかったので、どんなに小さな悪の存在さえも恐れ、総督官邸に入れませんでした。そのため、彼らはピラトを外へ呼び出すしかありませんでした。神のしきたりや祭りを一点の曇りもなく厳しく守る人々は、キリスト、愛の化身である方への憤りと憎しみに燃え、イーストではなく、命のパンであるキリストを取り除こうとしていました。

ヨハネは、死んだ宗教的な形式や儀式への彼らの制約や、もっと言えば彼らの霊的な盲目さを指摘しています。ヨハネによれば、イエス様が十字架に張り付けにされた正午とは、過ぎ越し祭の羊が食事の準備のために神殿でほふられているまさにそのときでした(ヨハネ 19:14)²¹⁰。彼らは儀式に細心の注意を払い、ヨハネ曰く「過ぎ越しの食事を食べられなくなることはないように」していました。彼らはキリストが本物の過ぎ越しの羊だとは全くわからなかったので、その観点から彼を殺そうとしていました²¹¹。

彼らがイエス様をピラトのもとへ連れてきたとき、ピラトはイエス様の罪状を聞きました。しかし彼らが言えることとは、イエス様が神様の御子だと主張していたという神への冒涇だけでした(マタイ 26:63)。この罪状は、ローマ人にとっては正当な理由ではありませんでした。これは鼻であしらわれるような問題だと良く知りながら、イエス様には何の罪も見出せなかったのです。彼らはイエス様の罪を示すことが出来ませんでした。そのため、彼らはイエス様が kakopoios、悪事を働く者、犯罪者だと訴えました。彼らは、何の罪もない神様の御子を不当に非難したのです。

イエス様を十字架の刑で処刑したかったので、彼らはイエス様をピラトのもとへ連れて行きました。彼らは、神のであると主張するこの者を、神の呪いの下で死なせたかったのです(ガラテヤ 3:13)²¹²。

しかしヨハネは、これらすべてが神様の御意志を成就するための出来事だったと証したかったのです。神様がお許しになることは、神様が任命することと同じく神様の御意志なのです。ヨセフは兄弟たちに、彼をエジプトに送ったのは彼らではなく、神様だと語ります。ダビデは、神様が話

すことを許されたと感じたために、シメイの呪いの言葉をおとなしく聞きます²¹³。イエス様は、「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません(ヨハネ 3:14)」と言い、「わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます(ヨハネ 12:32)」。ユダがどんな企てを立てようとも、弟子の全員がイエス様を否認し、逃げてしまつて、イエス様をカブけることがなくとも、神様の御意志は結局は成就されたのでした。

私たちの意図や計画によって悪事を働くとしても、神様は最後には、悪を越えて、ご自身の意志を成就されます。神様は悪を素晴らしい良いものに変えてくださいます。それゆえに、神様が許されることは、神様が計画されていることと何の違いもないのです。ただ悪い状況だけ見るとしても、イエス様はとても確信を持って十字架を背負うことが出来ました。悪の只中でも働いておられる神様の良い御手を確かに信じていたからです。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「神様は最後には、ご自分の目的を達成されるとヨハネは私たちに語っています。すべての人が自由に行動し、彼らの選択を行っているようであっても、深い意味合いでは、彼らは神様の決定されたことを行っているに過ぎないのです。」
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

どんなささいな悪の影響を受けることさえも避けたがり、わずかなイーストさえも完璧に取り除こうとした彼らでしたが、愛のイエス様を排除する事が最悪な事だと知らなかったのです、主を十字架に追いやりました。今日、私たちは、どんなことが起ころうとも、結局は神様の約束が成就され、神様の御意志が達成されることに気づきました。勝利に輝くのは悪ではなく、善だと信じます。ヨハネが証したこの重要なメッセージを手放さない私たちになるように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²¹⁰ G. Henton Davies and J. E. Morgan-Wynne. *The Last Seven DaysThe Story of Jesus and Holy Week*. Regent's Study Guides 7 (MaconRegent's Park College, Oxford with Smyth & Helwys Publishing, Inc., 1999),109.

²¹¹ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 349.

²¹² Ibid., 350.

²¹³ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the UttermostA Commentary on the Gospel of John*, 314.

真理とは何か？

ヨハネの福音書 18:33-38

33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入って、イエスを呼んで言った。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」
34 イエスは答えられた。「あなたは、自分でそのことを言っているのですか。それともほかの人が、あなたにわたしのことを話したのですか。」
35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人ではないでしょう。あなたの同国人と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのです。あなたは何をしたのですか。」
36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」
37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりです。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に來たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」
38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。」

主はピラトと深い質問と答えの応酬をしていきます。ほかの福音書の著者と違って、ヨハネは詳細な描写を取っておき、私たちに素晴らしい霊的な知恵を教えてください。

ピラトはイエス様に「あなたは王ですか？」と尋ねます。しかしイエス様はここで、はっきりと、王になるとおっしゃっており、彼の王国が権力や武力に基づくものではなく、人の心の中にある王国だとも明白にしています。彼は征服を目指していないとは言いませんでしたが、それは愛による征服でした²¹⁴。

人の子、私たちの世界に來られ、何の権力からの後ろ盾もなかった方は、ただ愛の権力のみを身にまもっていました²¹⁵。主の王国はこの世にはなく、真理の王国です。目には見えず、耳では聞くことのできない王国ですが、真理に気づいた者だけが本当にみて聞くことが出来、その王国の国民になれます。主は、この王国の本物の王です。彼は、権力を獲得しようとしたり、国家につながるような王ではありまんでしたが、唯一の真理の王でした。

ピラトはイエス様に「真理とは何ですか？」尋ねます。ヨハネは、このピラトの問いに関する答えを何も記していません。しかし数多くの解説者が、この後に続く出来事すべてが、ヨハネの答えであると指摘しています。真理は、罪人の救いのために十字架の道を行くというイエス様の行動そのものです。真理は、その救いをもたらすために御子をあきらめた愛の父の行動にみられるものです。罪のない神様の御子がカルバリの丘で磔にされているのを見るときこそ、私たちは何が真理なのか、本物の真理とは何かを知るようになるのです²¹⁶。

私たちの質問「真理とは何か？」についても、イエス様はピラトの前に立っていたように、私たちの前に立っていらっしゃいます。正真正銘、イエス様こそ完全な真理、完璧な真理です。

ピラトは、目の前に立っている本物の真理そのものであるイエス様を理解しませんでした。少なくとも、彼はイエス様の無罪を確信しました。

「私は、あの人には罪を認めません(ヨハネ 18:38)」ピラトがイエス様の無実を 3 度も主張していたことをヨハネは記録しています(ヨハネ 18:38、29:4,6)。宗教の権力者もこの世の権力者も、主からは何の罪も見出せませんでした。彼の死は、彼自らの罪の対価として課せられたものではありません。彼の死は正義の死だったとヨハネは証ししたがついています。彼の死が私たちに彼の命を与えています。私たちの罪と引き換えられた死でした。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. ピラトはこの世の権力の代表として理解することが出来ます。「あなたは王なのか？ あなたの国とは何か？」という質問から、この世の権力当局が何を懸念していたかがわかります。今日のメッセージに基づき、それらの質問に答えましょう。
3. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「世の宗教や哲学は、何世紀も、真理の内容について議論してきた。最近、真理は相対的であるという考えが受け入れられてきている。」
4. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適応できるでしょうか？

* 祈り *

真理はただイエス様であると私たちに気づかせてくださり、感謝します。イエス様の誕生、人生、死、復活そして昇天——すべてが私たちのための神様の啓示です。神様の啓示であるキリストは、完全で完璧な真理です。その真理は血と肉を身につけていたので、誰もが彼を見ることが出来ました。目があっても見えず、耳があっても聞こえないこの真理は、私たちに聞こえ、見えます。いま、この真理を証する私たちとなりますよう願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²¹⁴ Barclay, *The Gospel of John*, 284.

²¹⁵ Meyer, *The Life and Light of Men and Love to the Uttermost*A Commentary on the Gospel of John, 339.

²¹⁶ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 634.

この人じゃない！バラバを

ヨハネの福音書 18:39-19:6

39 しかし、過越の祭りに、私があなたがたのためにひとりの者を釈放するのがならわしになっています。それで、あなたがたのために、ユダヤ人の王を釈放することにしましょうか。」

40 すると彼らはみな、また大声をあげて、「この人ではない。バラバだ」と言った。このバラバは強盗であった。

1 そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした。

2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。

3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と言い、またイエスの顔を平手で打った。

4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」

5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です」と言った。

6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」

イエス様の無実を確信したピラトは、イエス様を釈放しようとした。

過ぎ越しの祭りの際には囚人を一人解放するという習慣を知り、ピラトはイエス様かバラバかを釈放するよう提案しました。バラバは腕力の人であり、血の人であり、暴力的な方法で自らの終焉に近づくことを選んだ人でした。一方のイエス様は、愛の人であり、穏やかな人であり、腕力では何もなならず、その神の国は人々の心の中にありました²¹⁷。

しかし、人々はバラバを選びました。あまりにも憎しみに燃えていたので、彼らの理由付けや判断はすべて混乱していました。彼らの選んだバラバが殺人犯、人の命を奪う者であり、彼らが拒否したイエス様が救い主、命を与える者であることが、彼らには見えませんでした。

彼らの選択に驚いたピラトは、イエス様をひどい拷問で苦しめることで、彼らの憎しみを和らげ、同情を買い、イエス様を解放しようと試みました。そのため、ピラトはイエス様をむち打ったのです。このむち打ち(phragelloō)は、残忍な拷問でした。使われるむちはただのむちではなく、金属や骨の鋭い破片で増強されたもので、犠牲者の体には血の塊が残され、このむち打ち刑で死ぬ囚人もいたことが驚くに値しないほどでした²¹⁸。

皮膚を剥がれたイエス様は、ひどく血に染まっていました。さらに、兵士らがイエス様の頭にいばらの冠をかぶせ、あざ笑いながら、イエス様の顔を平手で打ちました。これらすべての出来事を目の当たりにしても、人々の憎しみと怒りはまだ消えませんでした。

人々は、バラバを釈放し、イエスを十字架につけろと叫んでいました。「バラバ」とは、「父の息子」という意味です²¹⁹。

本物の「父の息子」、イエス様は、バラバを自由にしました。文字通りでは父の息子という意味の人物、つまり私たち皆をです。私たちの代わりに、イエス様は十字架につけられ、ご自分の命を与えました。

バラバに何が起こったかは、誰も知りません。しかしジョン・オクセンハムは彼の著書で、バラバのその後の展開を想像しています。バラバは最初は、ただ自分の自由についてのみ考えたでしょうが、その後、生きられたかもしれない男の顔を見始めました。イエス様の何かが彼を魅了し、彼はイエス様の最後を見届けようと、イエス様の後を追いました。イエス様が十字架を担いでいるのを見た彼に、一つの考えが沸き起こりました。「私があの十字架を運ぶべきだったんだ。彼じゃない。彼が私を救ったんだ！」そしてイエス様がカルバリーで十字架に磔にされたのを見た彼は、ただ一つのことしか考えられませんでした、「私があそこにつるされるべきだったんだ。彼じゃない。彼が私を救ったんだ。」²²⁰

まさに私の罪のために、キリストは尊い血を十字架で流されたのではありませんか！

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. ヨハネの時代の選民と宗教的指導者の罪について考えることで、現代の選民と宗教的指導者の罪について説明しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

ピラトよりも、神様の選民により残忍で悪い姿があることを見ました。世の指導者が、イエス様には罪がないと確信し、彼は無実だと宣言したとき、選民らは理由なき憎しみと怒りに燃え、主を十字架につけました。主は完璧で罪のない方ですが、私たちはあらゆる悪と罪に汚されています。しかし、それでも主は、私たちの代わりに十字架をかつぎ、その尊い命をお与えになりました。十字架は、イエス様ではなく私たちがつるされる所だと、私たちが覚えるようにさせてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



Jesus and Pilate
イエス様とピラト
by Ginturn H. Tran

²¹⁷ Barclay, *The Gospel of John*, 290.

²¹⁸ Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes*, 358.

²¹⁹ According to Morris, Barabbas is not really a name at all. "Bar" is an Aramaic expression meaning "son of" and "abba" is the Aramaic for "father." "Barabbas" is thus the transliteration into Greek of an expression that means "son of father."

²²⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 290.

Day 36 聖週間の火曜日

もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたはわたしに対して何の権威もありません

ヨハネの福音書 19:7-16

- 7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」
- 8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。
- 9 そして、また官邸に入って、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。
- 10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」
- 11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」
- 12 こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」
- 13 そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石（ヘブル語ではガバタ）と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。
- 14 その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」
- 15 彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかに、私たちに王はありません。」
- 16 そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。

ユダヤ人は、イエス様が自らを神の御子だと主張したため、殺されなければならないと言いました。それを聞いたローマ総督のピラトは、大きな恐れを抱くようになりました。ピラトが人間の形に神性が現れることに伴う迷信的な恐れを持つのは自然なことです。また、ユダヤ人指導者の言葉が、彼をひどい恐れへと導いたのかもしれませんが²²¹。

恐怖心に駆られ、ピラトはイエス様とより深い対話をしようと試みましたが、主はピラトの質問に答えようとしませんでした。ピラトがこの状況を司る者だということは疑いようがないことから、彼はイエス様に十字架の道を避ける貴重な機会を与えようとして「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを知らないのですか。(ヨハネ 19:10)」と尋ねました。

このピラトの問いに対する主の言葉に着目すべきです。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。…(ヨハネ 19:11)」主は、あらゆる状況を超越した神様の意志を見ており、妥協せず、恐ろしい十字架を喜んで背負いました。この死は、避けられるものでした。しかし主は、他のどんな道も求めず、最も悲惨な道を最後まで行かれました。なぜなら、その道が神様の許された道だったからです。

イエス様が神様の御子、選ばれた者だと聞いてから、ユダヤ人たちは、恐れを抱くのではなく、憎しみに燃えました。彼らは「除け！ 除け！ 十字架につけろ！」と叫んだのです。

これに対し、ピラトは尋ねます、「あなた方の王を私が十字架につけるのか？」

祭司長はなんと答えたのでしょうか？ 「カイザルのほかに、私たちに王はありません。」ユダヤ人の憎しみは、彼らを金切り声を上げるような激怒した暴徒、激昂した狂信者に変えてしまいました。そのような憎しみの中で、彼らはすべての憐れみを忘れ、すべての正義を忘れ、すべての道理を忘れ、神様さえも忘れてしまいました²²²。イスラエルの唯一の王は主である神様です——これが彼らの信仰の基盤でしたが、この確信さえも放棄してしまいました。

彼らは抜け目のない皮肉屋な政治家のように生きています。望む結果を得るために、他人を操る方法を知っている人々のように生きています。彼らは、もし政治的な手段としてみなされないとしたら、神様の目的を推進することに 1 ミリの関心も寄せませんでした²²³。イエスを十字架につけるという彼らの告発は、政治を超えた宗教問題を曲げました。命と愛を与えるために来られた神の御子を、彼らは拒絶しました。

結局、裁判官の席に着いたピラトは、神の御子を十字架に磔にするために引き渡しました。

しかし、その日、誰が本当に裁かれたのでしょうか²²⁴？ 明らかに、裁かれたのは神の御子ではありません。神の御子を恐れていたピラトは、真理を行動で示すという本物の勇氣を持っていませんでした。激しい怒りと敵意を燃え上がらせたユダヤ人らは、神の御子を死へと駆り立てました。ピラトやユダヤ人ら含め私たち皆が、最期にはキリストの審判の前に立たねばならないと定められています。キリストこそ私たちの裁判官であり、十字架は唯一の判決です。

「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。(Ⅱコリント 5:10)」

* 質問 *

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「このひどい状況に関するヨハネの記述を勉強すると、イエス様よりもピラトが裁判にかけられている気がしてきます。確かにピラトは、彼の人生で、イエス様のような人には出会ったことがなく、彼に恐怖を抱いていました。²²⁵」
- 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適應できるでしょうか？

* 祈り *

カイザル以外に王はいないと言った祭司長たちは、主を十字架に追いやりました。選民の代表たちには、彼らの望みを果たすために神様とのつながりさえも絶ってしまうほど、ひどい憎しみと卑劣さがあったことを知りました。私たちの罪のすべてが、主の十字架の前に明らかにされています。主は勇敢にも、ローマ帝国ではなく、天におられる神様が唯一の支配者だと述べました。避ける事ができたにもかかわらず、主は十字架の道を行かれました。主はただ神様のご意思のみを見上げ、そのご意思を成し遂げるために命を捧げました。主のこの姿が、私たちの心に深く触れます。確かに主の十字架は、私たちの判決です。十字架の前に、恥じることない人生を歩むことを願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²²¹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 641.

²²² Barclay, *The Gospel of John*, 276.

²²³ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 653.

²²⁴ Ibid., 648.

²²⁵ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 351.



Bearing his own cross
自分の十字架を背負って
by Joungmi Kang

自分の十字架を背負って

ヨハネの福音書 19:17-22

17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれた。
18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。
19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。
20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。
21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください」と言った。
22 ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

最終的に、ピラトは自分の手を洗い、イエスの血が流されることについて自分は無関係であり、その責任は彼らにある(マタイ 27:24)と述べ、イエス様を十字架につけるために怒りに燃えた群衆に引き渡しました。

ヨハネは、イエス様が自分の十字架を担ぎ、「どくろの地」という場所まで行ったと記しています。ヘブル語(より厳密に言えばアラム語)ではゴルゴタ、そしてラテン語では calvaria (カルバリ) です。自分の十字架を担いで、命の主は、最も悲惨な死が待ち受けているどくろの地まで行きました。自分自身の処刑に使われる道具を運びながら死の場所へ近づいていくこと以上に恐ろしい出来事はきっとないでしょう。

しかし、ヨハネがこの記述で伝えようとしたメッセージは何でしょうか？

イエス様が、自分の運命の唯一の主人として、死へと歩いていったということです。先に、私たちはイエス様が自らの命を捨てたこと、そして誰もそれを主から奪えないことを学びました(ヨハネ 10：18)²²⁶。主ご自身が、自ら進んで十字架を担ぎました。

この主の姿は、私たちにイサクが自らを捧げ物とするための木を運んだという対型を思い起こさせます²²⁷(創 22:6)。木を運んだイサクは、自らが犠牲となることを知らずにモリヤ山の頂に立ちましたが、十字架を運んだ主は、自らが十字架に磔にされる生贄だと知った後にゴルゴタの丘に立たれました。イエス様は、まことの過ぎ越しの羊として、ご自身の尊い血を自ら運んだ十字架で流されました。ヨハネはイエス様を、過ぎ越しの羊が神殿でほふられると同時に死なれた生贄と見なしていました²²⁸。

人々は主を十字架に磔にし、主とともに 2 人も同じ刑に処して、イエス様を中心に他の 2 人を左右それぞれに置きました。主は罪のない方でしたが、罪人を救うために来られ、「罪人の友」として生き、彼らを救うために死なれた主は、罪人の間につるされました。イエス様の死は、罪人の代わりの死でした²²⁹。

最後には、ピラトは良心を発揮し、祭司長たちに屈することなく、ヘブル語(アラム語)、ラテン語、ギリシヤ語で「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と記しました。ヘブル語とギリシヤ語、ラテン語は、当時、世界に知られていた言語でした。つまり、ヨハネは実は、イエス様がイスラエルを超え、誰にとっても王であると宣言しているのです²³⁰。世界の 3 つの素晴らしい言語で、人々は彼を王と呼びました²³¹。ピラトのこの判断は、永遠に真理の光を輝かせています。ナザレのイエスは、ユダヤ人、ローマ人、ギリシヤ人、そして全人類の王であり、キリストです。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、次の文章におけるイエス・キリストの十字架の意味を説明しましょう。
「ヨハネはシンプルに『彼らがイエスを十字架につけた(18 節)』と述べています。他の福音書著者のように、十字架に磔にされるという恐ろしい出来事を一言で片付けています。4 つの福音書のどの著者も、私たちの同情心を掻き立てたり、私たちの感情を刺激したりしない点は興味深いです。彼らは皆、事実に満足しています。何が起こったのかを私たちに伝えており、それがすべてです。私たちがイエス様は私たちのために死んだとはっきりとわかることが重要です。イエス様が私たちのために耐えたことを詳しく考えることで沸き起こる感情にかき乱されることは重要ではありません。²³²」
3. 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「彼は嫌な拷問道具を、栄光の王座と『その木からの統治』に変えています。²³³」
4. 今日のメッセージから得られる教訓を、どのように自分の人生に適応できるでしょうか？

* 祈り *

命の主は、ご自分の十字架を、死の場所まで自ら進んで運ばれました。主は罪のない者としてこの罪深い世界に来られましたが、侮蔑され、からかわれ、罪人たちと共に十字架につけられました。私たちの罪のせいで主は十字架を担いましたが、主の十字架は私たちのための愛であり、あがないでした。今もなお、ピラトのこの判決は永遠に十字架の上で輝いています。イエス様はユダヤ人のためだけの救い主ではなく、全ての人の為の救い主だと信じます。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²²⁶ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 917.

²²⁷ Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes*, 366.

²²⁸ Brown, *The Anchor Bible: The Gospel According to John XIII-XXI*, 918.

²²⁹ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 658.

²³⁰ James Montgomery Boice, *The Gospel of John: An Expository Commentary*, vol. 5 John18:1-21:25 (Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1982), 192.

²³¹ Barclay, *The Gospel of John*, 293.

²³² Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 657-658.

²³³ Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes*, 369.

誰のものになるか、くじを引こう

ヨハネの福音書 19:23-24

23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。

4人の兵士がイエス様を十字架に磔にし、彼の着ているものを取りました。1世紀のパレスチナ人男性の一般的な服装は、腰布、下着(チュニツク)、上着(マント)、ベルト、頭を覆うもの、そしてサンダルでした²³⁴。4人の兵士は、イエス様の5つの品から自分の取り分を取らねばなりませんでした。いま最後に、縫い目のない、上から下まで一枚に織られた下着が残りました。

兵士たちは口々に、それを4つに裂くべきではないと言い、誰のものになるか、くじを引こうと決めます。最も悲惨な死の最中にあるイエス様の前で、この兵士たちは何をしているのでしょうか？

彼らは十字架の下で賭け事をしていました。この世のキリストへの無関心さを、これほどよく表している光景はありません。十字架の上で、イエス様は激しい苦痛の中で死にかけています。その十字架の足元では、兵士たちがくじを引こうとしています。まるでそれが問題ではないかのようにです²³⁵。

ヨハネは、イエス様の下着が縫い目のない一枚に織られたものだと記しています。これはまさに祭司長が着る物です。祭司の役割を思い出してみましょう。祭司の役割とは、神様と人とのとりなしです。祭司はラテン語で“pontifex、橋を造る者”という意味です²³⁶。イエス様はまことの祭司として、神様と私たちの間の橋となりました。私たちがこの橋を渡る時、神様のもとへ行くことが出来ます。

この縫い目のない完成品は、祭司長のローブのようであり、欠点がなく完璧な主の精神生活のようでもあります²³⁷。主には私たちが惹きつける美しさや威厳はなく、私たちが切望するようなものは何も、彼の外見にはありませんでした(イザヤ 53:2)が、彼はその精神生活を完璧な祭司長として生きました。

2つの絵が私たちに描かれようとしています。ひとつは、神様と私たちの橋となられた真の祭司長が、十字架の上で尊い血を流された場面です。主は、自分のものは何も持たず、すべてを捧げ、最後には自分の命さえも捧げました。もうひとつは、十字架の下で、最後に残った主の下着を誰が取るか、賭け事をし、争う兵士たちの姿です。私たちに投げかけられるこの2つの情景を覚えるべきです。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージに基づき、十字架上の主の姿と十字架の下の兵士たちの姿を描写し、主の姿と自分自身の姿を比較しましょう。
3. 今日のメッセージから得た教訓を、どのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

主は完全に自分を無にした人生を歩まれました。主は最も低い場所で私たちのために全てを捧げられ、最後に残ったご自分の命さえも捧げました。主が人々にご自分の命を捧げるため十字架を背負われたとき、その尊い血の十字架の下で兵士たちは主の最後の下着を取り去りました。私たちがその兵士たちのようにならず、主に似て、自分を無にし捧げる者となりますように願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



Who will get it?
誰がもちょう？

By Ginturn H. Tran

²³⁴ Morris, *Reflections on the Gospel of John*, 663.

²³⁵ Barclay, *The Gospel of John*, 296.

²³⁶ Ibid., 296.

²³⁷ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 365.

女よ。見なさい。あなたの息子です！

ヨハネの福音書 19:25-27

25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロバの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。
26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。
27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

4 人の兵士たちがいました。残忍で、無関心で、自分たちのことにのみ関心を持つ人たちです。また 4 人の女性がいました。死を恐れず、イエス様の側にいるために十字架の近くにきた人たちです。正統派の人々が罪人や異端者と見なす者への愛を表すことは、常に危険なことです²³⁸。しかし数多くの愛の思い出が、これらの女性をこの場所に呼びました。愛の力が弱い女性を強くし、死の場所へと彼女たちを導きました。死を乗り越えるものは、ただ愛のみです。

イエス様が血を流しながら十字架から見下ろしているとき、彼は彼の母親、マリヤを見ました。主の母であるマリヤの夫・ヨセフは亡くなっており、マリヤはそのとき未亡人だったと、一般的には考えられています。彼女のほかの息子たちはまだ信仰者ではありませんでした²³⁹。ヨハネによると、イエス様はマリヤに「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言い、愛する弟子ヨハネには「そこに、あなたの母がいます。」と言いました。イエス様は母親をヨハネに託しました。これは福音書の中で最も美しい場面のひとつです。

イエス様は、十字架の激しい苦痛の中で、この世の救いが懸かっている只中で、ご自分がなくなった後の日々での母親の孤独を思いました²⁴⁰。イエス様は神様の御子でしたが、マリヤの息子であることも忘れてはいませんでした。愛のイエス様は、息子への愛のゆえに恐ろしい場所へ来た彼の母親の愛を認めない方ではありませんでした。彼女の愛から逃げたりはしませんでした。命が尽きようという激しい苦痛の中で、そして宇宙的な戦いの只中で、イエス様は母親を忘れず、彼女を呼びました。体が十字架に磔にされ、血を流しながら、きちんと呼吸することもままならないような、言い表せない苦痛の中で、私たちはイエス様のように出来るでしょうか？

イエス様のこの深い愛を黙想すべきです。

その日の終わりに、十字架の上でさえ、イエス様はご自分の悲しみではなく、他の者の悲しみをもっと考えていらっしゃいました²⁴¹。本当に、世にいる自分のものを愛されたキリストは、その愛を最後まで示されたのです(ヨハネ 13:1)。

* 質問 *

1. 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
2. 今日のメッセージの中に見られるイエス様の姿に基づき、次の聖句の意味を説明しましょう。「イエスはそう言っている人に答えて言われた。『わたしの母とはだれですか。また、わたしの兄弟たちとはだれですか。』それから、イエスは手を弟子たちのほうに差し伸べて言われた。『見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。』(マタイ 12:48-50)」
3. 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

* 祈り *

イエス様を愛した 4 人の女性が、死の十字架の場所に来ました。彼女たちはローマ兵士や、死への恐怖があったとしても、愛の力がその死の恐怖に打ち勝った姿を見ました。死の危険の中でもイエス様のもとにきた母親をイエス様は覚えていました。イエス様は母を気遣い、愛する弟子に母を委ねました。イエス様は人類の救い主であられますが、一人の母親の息子として、愛の務めを果たした姿を見ました。私たちがイエス様の深い愛の心を覚えることを願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



It is finished
完了した
by Joungmi Kang

²³⁸ Barclay, *The Gospel of John*, 297.

²³⁹ Phillips, *Exploring the Gospel of John*, 366.

²⁴⁰ Barclay, *The Gospel of John*, 299.

²⁴¹ Barclay, *The Gospel of John*, 299.

完了した

ヨハネの福音書 19:28-30

28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

29 そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

すべてのことが完了したのを知って、「聖書が成就するために」、イエス様は「わたしは渇く。」と言い、酸いぶどう酒を受けられました。彼の誕生、彼の人生、彼の受難までも含めた彼の行動すべてが「聖書の成就」でした。言い換えれば、預言と神様のご意志が、キリストの人生を通して成就されたのです。

ヨハネは、彼らが酸いぶどう酒の壺に海綿を浸し、その海綿をヒソブの枝につけて、それをイエス様の口もとに差し出したと記録しています。イエス様はその飲み物を受けられました。ヒソブは、旧約聖書では過ぎ越しの祭りの儀式で使われており(出エ 12:22)、清めの儀式で使われていました(歴代 19:6、18；詩篇 51:7)²⁴²。死の霊は、門柱に羊の血が塗ってあるユダヤの家々を通り過ぎました。ユダヤ人はまた、死体や墓に触った者を清めるためにもヒソブを使いました。ヨハネは、羊の血が神様の選民を救ったように、神様の欠点のない羊であるイエス様の血が、この世界の命を救い、彼の血が私たちの罪を清めることを証ししたいと願ったのです。イエス様の死が私たちの本当の過ぎ越しであると信じ、彼の尊い血の力に信頼するならば、私たちの罪が燃え尽きることを覚えなければなりません。

すべてが起こった後、十字架の上のイエス様の最後の宣言は「完了した！」でした。スパージョンはその言葉、tetelestai(ギリシャ語)について次のように述べています。「この一つの言葉を説明するために、かつて話された全ての言葉が必要かもしれない。全く計り知れない。高潔で、私はそれに達することが出来ない。深くて、私はそれを探ることが出来ない。²⁴³」

それは救いようのない殉教者の悲痛な叫びではありません。彼の苦しみがいま終わりに到達したという安堵の表現でもありません。疲れきった人生の最後のあえぎでもありません。むしろそれは、神聖なる贖い主の一部の宣言です。天から地上へ来た彼がすべきことが今、すべて成されたこと、神様の全ての性質を明らかにするために必要なことが今、全て達成されたこと、律法によって罪人が救われる前に必要とされたことが今、すべて行われたこと、そして今や、私たちの贖いの代価が完全に払われたことが宣言されたのです²⁴⁴。

この瞬間は失敗の瞬間ではなく、イエス様の生涯における成就の瞬間なのです。主は大きな声でこの世界に宣言されました、「私はすべてを成し遂げた。御父が私にするようにと授けた仕事を完了した！(ヨハネ 17:4)」

ヨハネは、イエス様がこの勝利の宣言の後、頭をたれ、霊をお渡しになったと述べています。ヨハネが使った言葉は、枕にもたれかかる場面で使われる言葉であったかもしれませんが²⁴⁵。ご自身の運命の完璧な主人として、主は自らの合意の下にご自分の人生を横たえられました。誰かが取り去ったものではありませんでした(ヨハネ 10:18)。いま、長くもあり、また短くもある33年のイエス様の激しい戦いが終わり、その戦いは完璧に勝利に終わりました。神様から与えられたタスクを完了された後、彼はもたれかかり、休息のなかに、充足感のなかに、平和の中に入っていきます。いま、彼は霊を御父の御手に委ね、息を引き取りました。

「イエスは大声で叫んで、言われた。『父よ。わが霊を御手にゆだねます。』」こう言って、息を引き取られた。(ルカ 23:46)」

＊質問＊

- 今日のメッセージを自分の言葉で要約しましょう。
- 今日のメッセージに基づき、次の文章の意味を説明しましょう。
「ヨハネ 19:30 についての4世紀のアウグスティヌスの発言は最も正確だ。『彼の意思に反してではなく、彼がそう望んだからこそ、そして彼が望んだときに、彼が望んだように、救い主の霊は肉体を離れたのだ。イエス様がしたように、望むときに眠りにつける者がいるだろうか？ イエス様が着物を取ったときのように、望むときに着ている物を脱ぐ者がいるだろうか？ イエス様がこの世を出て行ったように、望むときに外へ出て行く者がいるだろうか？』²⁴⁶」
- ヨハネの報告に基づいて、40日間、私たちはイエス様が弟子たちの足を洗う場面から息を引き取られるまで、地上でのイエス様の最後の3日間の行動を黙想してきました。イエス様の最後の3日間は、十字架上でクライマックスに達します。これまでのメッセージに基づき、イエス・キリストの十字架の意味を説明しましょう。
- 今日のメッセージから得た教訓をどのように自分の人生に適用できるでしょうか？

＊祈り＊

ユダヤ人は羊の血を塗っておいたとき、死の霊から救われました。同じように、私たちがイエス様の血の力を信じ、私たちの中にそれを塗るときに、死を乗り越えて命に至ることができると、今一度、気づくことができました。主が十字架で死なれた時、イエス様は私たちに命を与えました。十字架は恥ではなく、栄光である事を覚えます。十字架は絶望ではなく、希望だと信じます。主の聖なる人生は、完璧な勝利として、「完了した」という宣言にと共に成し遂げられました。つらい労働を全て終えて眠りにつく人のように、主は神様から与えられた務めを果たし、十字架の上で、神様の御心へと入っていくように、眠りにつかれました。この40日間のバイブルスタディーを完了させて下さった恵みに感謝します。私たちがいつも、主の尊い血の十字架を見上げることが出来ますように願います。主の足跡に従い、十字架の道とともに歩む、まことの弟子となりますよう願います。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

²⁴² Bruce, *The Gospel of John: Introduction, Exposition and Notes*, 373.

²⁴³ Charles Haddon Spurgeon, "Christ's Dying Word for His Church" in *Sermons on the Gospel of John*(Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1966), 170.

²⁴⁴ Arthur W. Pink, *The Seven Sayings of the Saviour on the Cross* New pbk. ed. (Grand Rapids: Baker Book House, 2007), 102.

²⁴⁵ Barclay, *The Gospel of John*, 301.

²⁴⁶ Gaebelein, *The Gospel of John: A Complete Analytical Exposition*, 372.



It is finished
完了した
by Ginturn H. Tran